

ここにいるその人を大切にする

ユースポート横濱

Empowerment

よこはま若者サポートステーション 2022 年度報告書

VOL.16

運営団体:特定非営利活動法人ユースポート横濱

はじめに

2022年度は、前任の熊部が長年にわたり施設長を務めてきた足跡を受け継ぎ、私池田が施設長となつて初めての1年でした。こうして無事に皆様に事業報告ができることは大変感慨深く、多くの方々のご支援とご協力をいただいたおかげだと感じています。この場を借りて御礼申し上げます。

2022年度は、コロナ禍がすでに3年目に入った年でした。年度初頭は世間的にはまだ対策を緩める段階ではなかったと記憶していますが、私たちはオンライン相談・電話相談を活用する体制から、原則対面相談に戻していく方向に舵を切りました。コロナ禍以降なるべく対面相談と遜色なくオンライン相談ができるように尽力してきましたが、社会との接点が限られた若者にとって、実際に外出準備をして横浜駅まで電車を乗り継ぎ、互いに顔を突き合わせて話をする機会は格別です。十分な対策を講じた上で積極的に対面相談に戻していった結果、年度末時点で8割以上が対面相談となりました。今後も利用者の事情に合わせて柔軟にリモート相談を活用しつつも、多くのことがオンラインで済まされる時代だからこそ、直接顔を合わせる機会を大切にしていきたいと思っています。

また、2022年度は「私たちの声を届けよう！プロジェクト」という新しいプロジェクトにも取り組みました。若者のリアルな思いやニーズを社会へ届けることを目的に始めた試みで、私たちの活動を支えるロジックモデルに基づいて、「社会が困っている若者を認識すること」を促進する柱の一つとして実施しました。このプロジェクトでは、企画段階から横浜市社会福祉協議会の方々にご協力をいただき、想定以上に多くの若者に参加してもらうことができました。若者にとっても有益な体験になったと感じていますが、私たちにとっても社会福祉協議会との協働プロジェクトという新たなチャレンジとなりました。詳細はぜひ第3章をご覧ください。

私たちユースポート横濱は、次の2か年も引き続きよこはま若者サポートステーションを受託することが決まりました。2023年度はアウトリーチに重点を置くことが定められましたが、それに加えて私たちは、地域の企業とのより一層の連携による出口の拡充にも取り組んでいきたいと考えています。今後も歩みを止めずに進んでまいりますので、引き続きご支援いただけますようお願い申し上げます。

2023年5月吉日
よこはま若者サポートステーション
施設長 池田 彩子

目 次

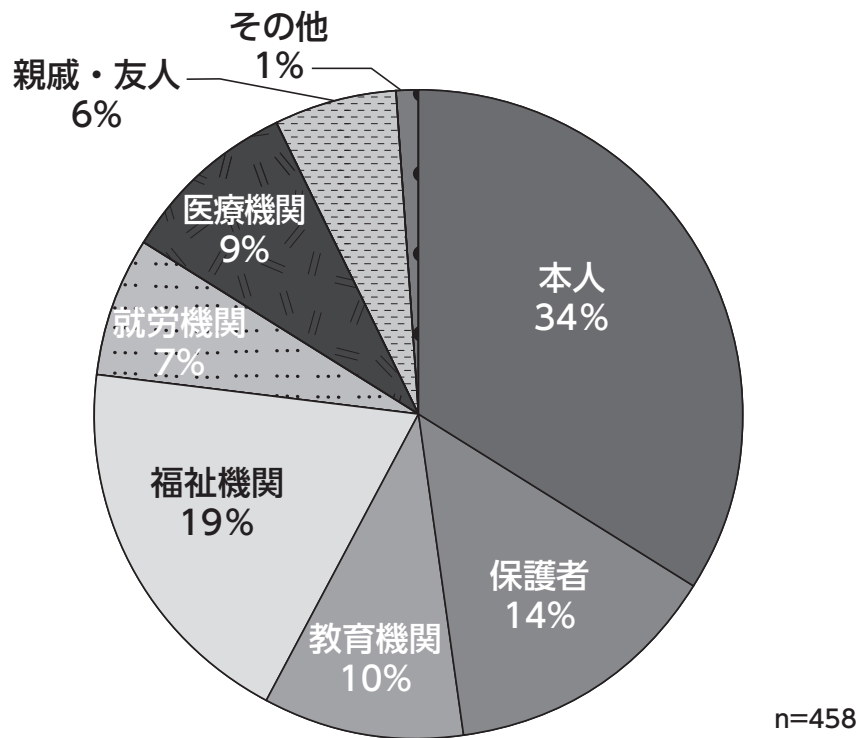
第 1 章 2022 年度 事業実績（統計）.....	1
1. 2022 年度 新規登録者の概要	3
(1) 支援につながった経緯.....	3
(2) 職業経験の有無	3
(3) 最終学歴.....	4
(4) 生活保護受給者の割合.....	4
2. 進路決定実績.....	5
3. 開所からの推移（統計）.....	6
(1) 総利用者延べ人数（開所からの推移）.....	6
(2) 新規登録者数の推移（再登録者除く）.....	6
(3) 新規登録者の男女比の推移	7
(4) 新規登録者の平均年齢の推移.....	7
(5) 新規登録者の居住地の推移	8
第 2 章 2022 年度 事業報告	11
1. 入口事業報告.....	13
2. 相談事業報告.....	19
3. プログラム事業報告	23
4. 出口事業報告.....	28
5. 全体会議研修報告	32
第 3 章 2022 年度の取り組み.....	37
1. 私たちの声を届けよう！プロジェクト ～生きづらさを抱える若者のリアルな声を社会に届けるための取り組み～.....	39
2. 令和 4 年度「就職氷河期世代相談サポート付集中プログラム事業」事業報告	43

第1章 2022 年度 事業実績（統計）

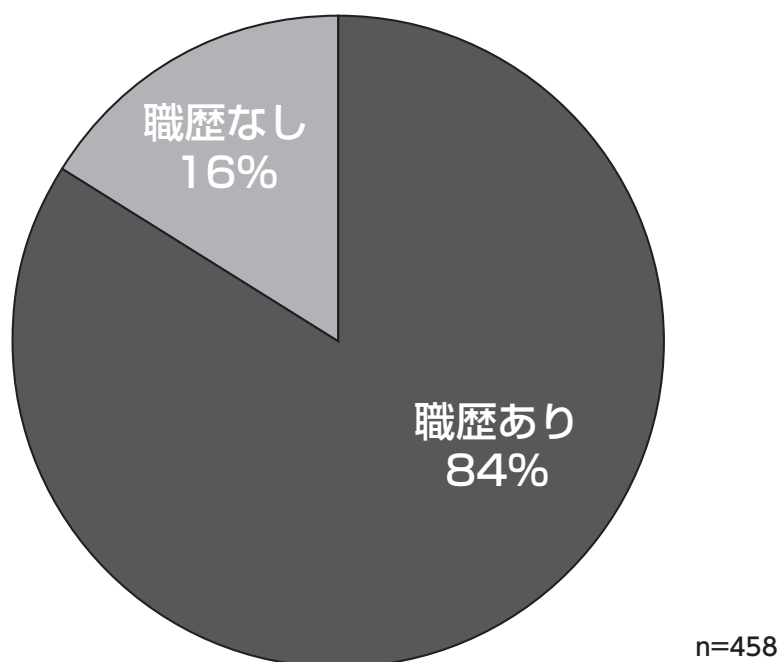
＊第 1 章の統計は、よこはま若者サポートステーション事業（厚生労働省）、横浜市若者サポートステーション事業（横浜市）、生活困窮状態にある若者に対する相談支援事業（横浜市）の実績を取りまとめた形で報告する。

1. 2022年度 新規登録者の概要

(1) 支援につながった経緯

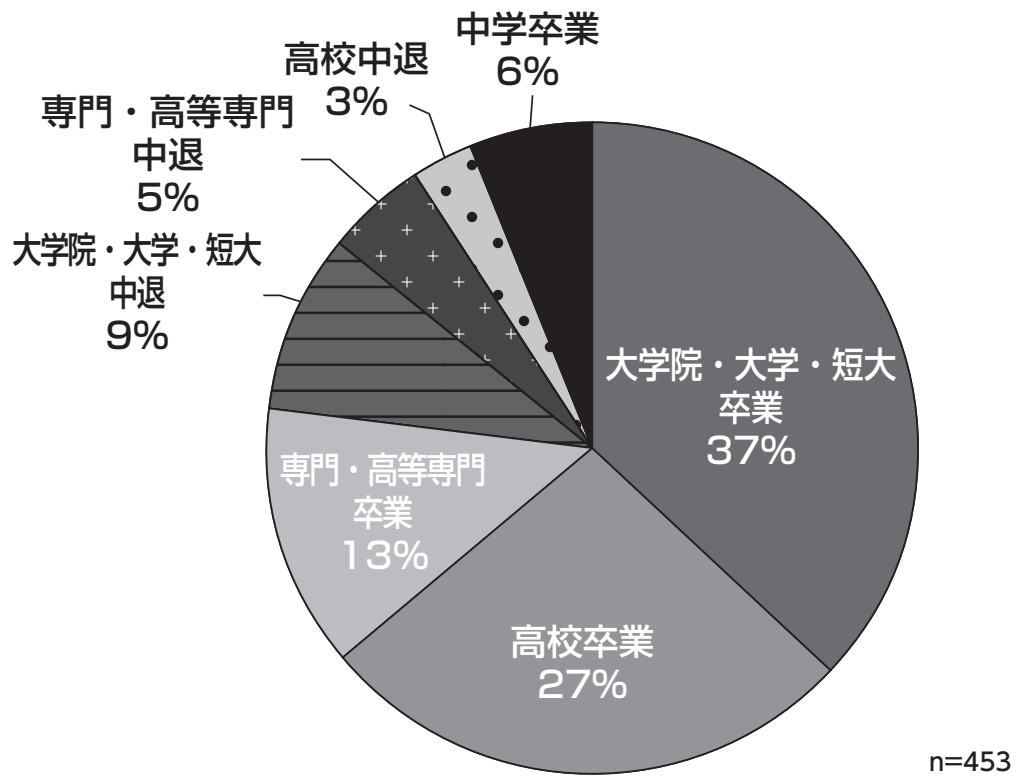


(2) 職業経験の有無



※「職歴あり」は、正規、非正規等の雇用形態、長期、短期等の期間は問わず

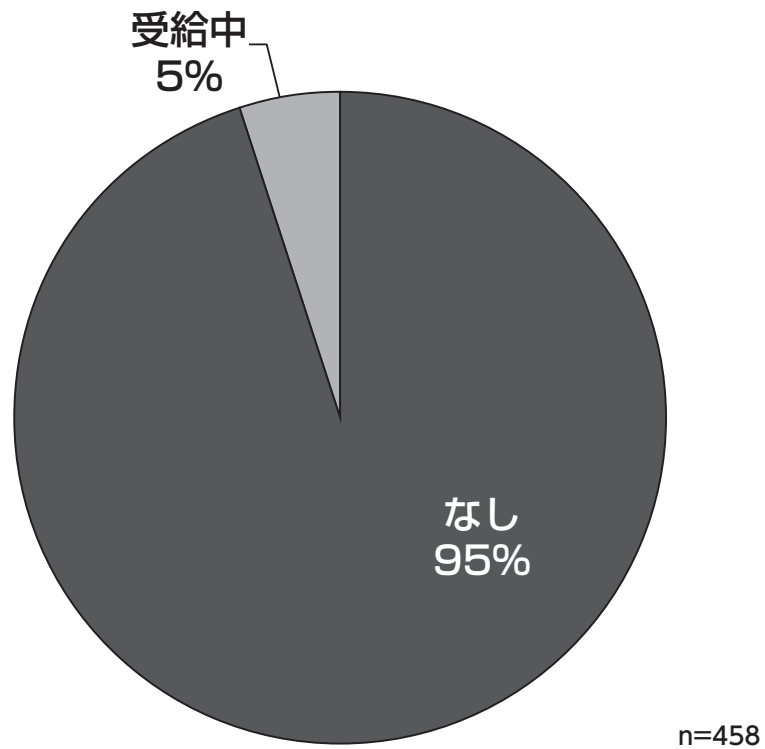
(3) 最終学歴



※未聴取5件を除く

※在学中の人は卒業したと推定される学歴に加算（例：高校在学中は中学卒業に加算）

(4) 生活保護受給者の割合



2. 進路決定実績

進路決定実績（件数）

正規（一般）		73
正規（障害者枠）		1
非正規長期（一般）	週 20 時間以上	111
	週 20 時間未満	131
非正規長期（障害者枠）	週 20 時間以上	7
	週 20 時間未満	0
非正規短期		64
職業訓練		13
進学		9
その他		0
計		409

正規・非正規長期のみの進路決定内訳（件数）

	正規 （一般）	正規 （障害者枠）	非正規長期 （一般）	非正規長期 （障害者枠）	合計（人）
事務従事者	12	1	57	3	73
販売従事者	3	0	64	0	67
サービス職業従事者	7	0	26	1	34
保安職業従事者	0	0	3	0	3
農林漁業従事者	0	0	0	0	0
生産工程従事者	13	0	22	0	35
運転従事者	0	0	0	0	0
建設従事者	8	0	3	0	11
運搬従事者	4	0	21	0	25
清掃従事者	2	0	17	0	19
上記で分類できない職種	23	0	28	3	54
その他詳細不明	1	0	1	0	2
計	73	1	242	7	323

3. 開所からの推移（統計）

（1）総利用者延べ人数（開所からの推移）

（人）

年度	総受益者			若者			保護者			その他（支援者等）		
	計	よこはま	サテライト	計	よこはま	サテライト	計	よこはま	サテライト	計	よこはま	サテライト
2022年度	15,429	13,443	1,986	14,073	12,221	1,852	455	414	41	901	808	93
2021年度	14,878			13,866			425			587		
2020年度	13,070			12,446			234			390		
2019年度	13,482			12,069			526			887		
2018年度	15,318			13,670			610			1,038		
2017年度	14,586			12,980			590			1,016		
2016年度	13,994			12,773			560			661		
2015年度	13,777			12,558			506			713		
2014年度	14,210			13,042			510			658		
2013年度	13,426			12,106			616			704		
2012年度	10,670			9,121			504			1,045		
2011年度	11,273			9,914			452			907		
2010年度	11,463			9,917			553			993		
2009年度	10,960			9,380			592			988		
2008年度	9,833			8,287			866			680		
2007年度	9,503			7,754			825			924		
2006年度	2,409			1,927			207			275		
総計	208,281			185,883			9,031			13,367		

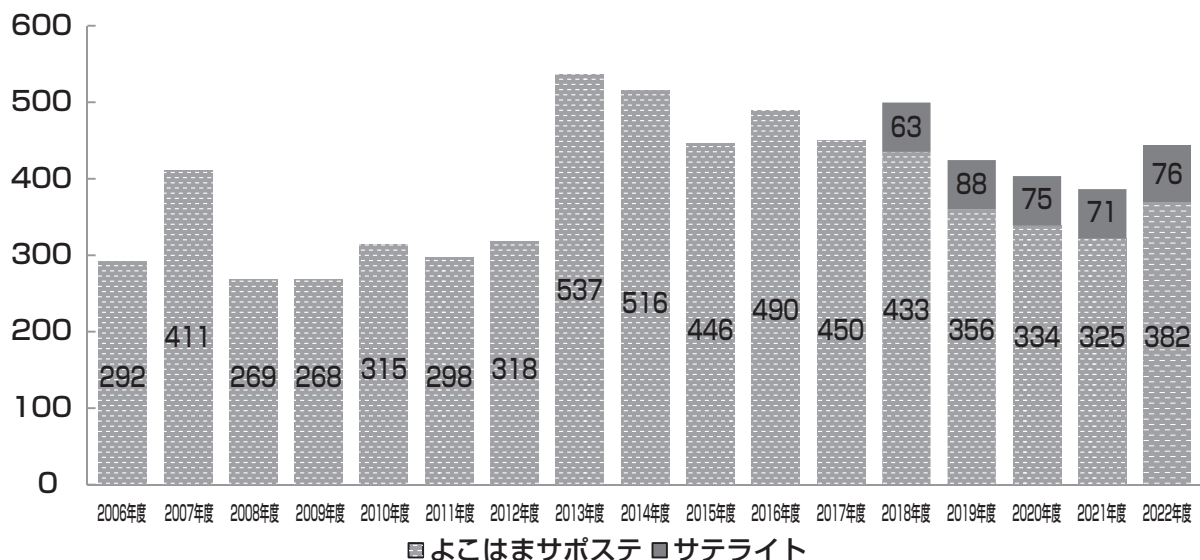
※若者は、個別相談、同行支援、ケースカンファレンス参加の延べ人数、プログラム参加延べ人数の総計

※保護者は、若者支援に付随する個別相談、同行支援、ケースカンファレンス参加の延べ人数、保護者説明会参加延べ人数の総計

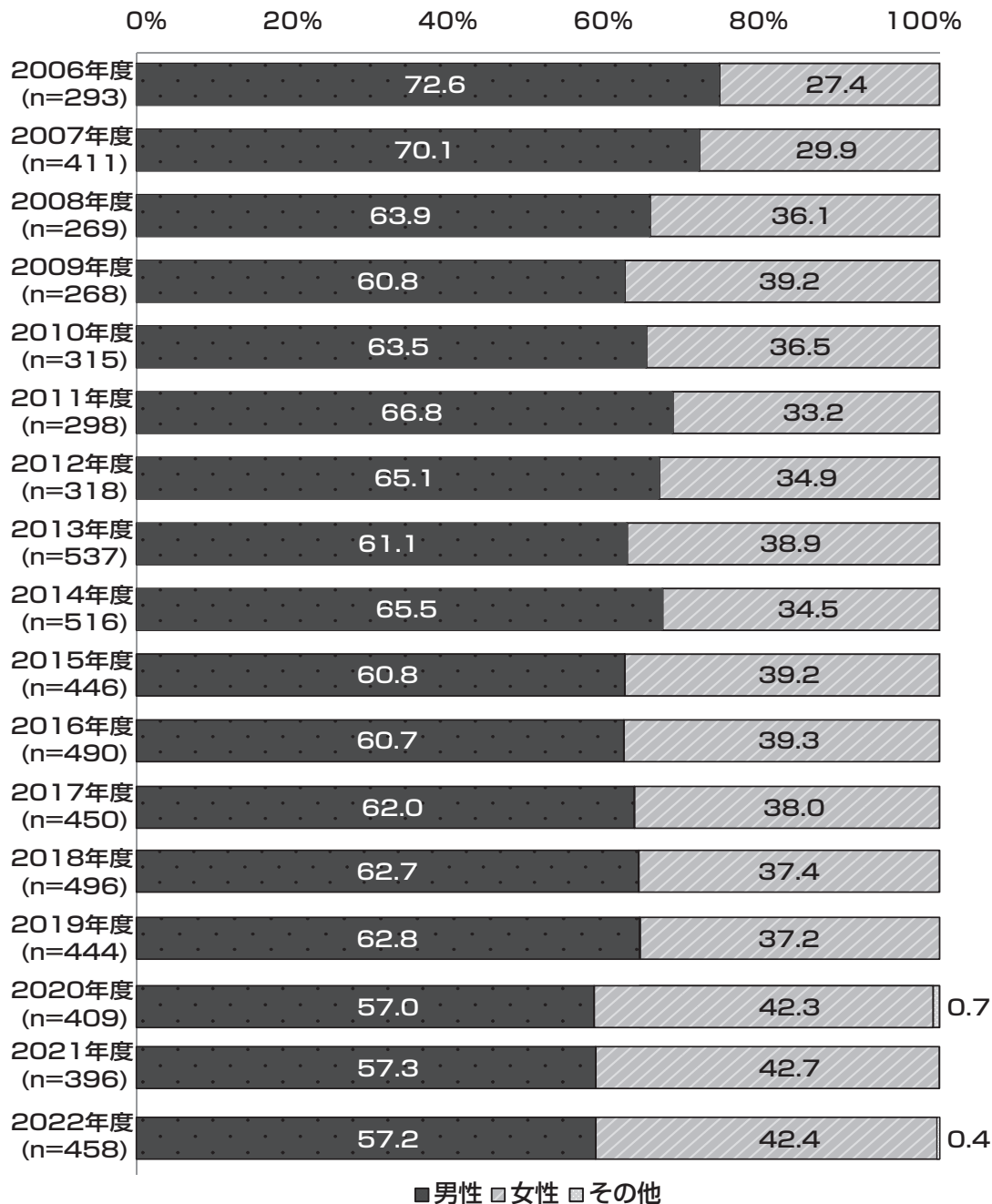
※その他（支援者等）は、若者支援に付随する個別相談、同行支援、ケースカンファ参加の延べ人数、サポステ説明会や視察、ヒアリング等の来所延べ人数の総計

（2）新規登録者数の推移（再登録者除く）

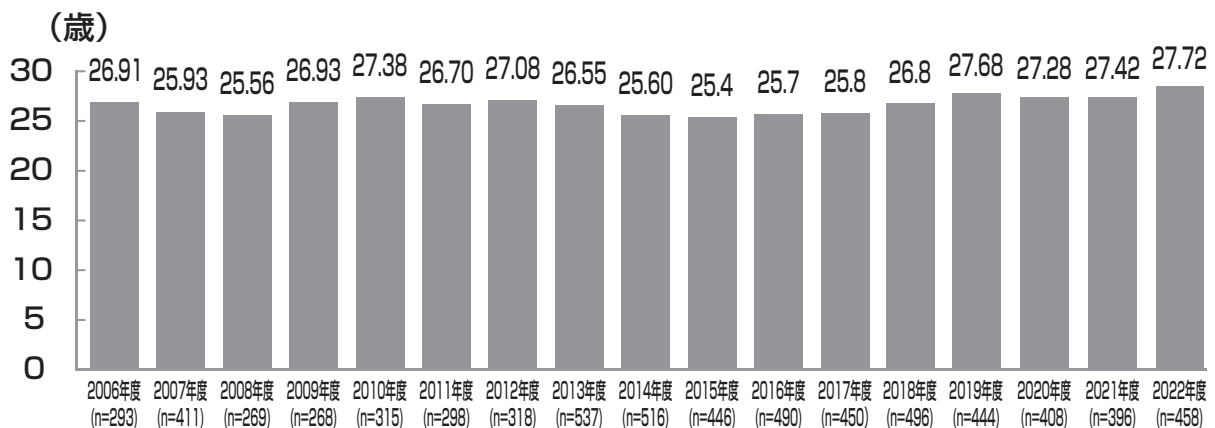
（人）



(3) 新規登録者の男女比の推移



(4) 新規登録者の平均年齢の推移



(5) 新規登録者の居住地の推移

横浜市内 区別年度推移

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	合計(人)
鶴見区	13	22	7	8	20	15	15	25	19	22	24	27	25	19	19	31	25	336
神奈川区	16	11	7	16	20	12	24	26	35	33	27	22	26	30	21	31	32	389
西区	8	8	1	3	4	5	9	17	9	13	10	9	12	8	10	10	17	153
中区	4	7	3	6	9	6	15	12	18	13	17	12	14	14	6	16	10	182
南区	14	20	10	14	14	13	13	23	31	39	22	18	34	19	22	18	23	347
保土ヶ谷区	14	18	10	5	17	18	13	31	26	40	30	27	25	16	28	18	29	365
磯子区	10	21	4	9	12	3	18	21	19	21	21	22	14	15	11	9	12	242
金沢区	12	18	9	13	10	11	11	31	22	23	29	30	29	17	27	19	20	331
港北区	10	24	16	19	20	16	21	33	37	41	30	35	38	29	35	40	30	474
戸塚区	11	22	7	12	20	16	10	22	35	33	38	24	25	24	16	17	28	360
港南区	19	17	12	12	12	11	12	22	28	25	18	26	20	21	23	20	19	317
旭区	17	20	12	12	13	19	24	36	36	49	29	27	33	22	29	30	29	437
緑区	12	7	6	6	10	9	7	13	23	34	21	17	17	25	24	21	31	283
瀬谷区	6	8	7	10	8	11	21	22	18	18	21	17	21	12	8	14	16	238
栄区	7	5	9	4	3	8	3	8	4	5	8	13	4	4	5	2	7	99
泉区	6	11	5	12	21	10	14	20	20	26	18	17	20	21	13	13	18	265
青葉区	14	16	14	7	13	19	4	28	18	19	16	12	28	15	14	9	26	272
都筑区	3	7	7	7	8	12	11	18	18	32	17	18	24	22	22	18	14	258
合計	196	262	146	175	234	214	245	408	416	486	396	373	409	333	333	336	386	5348

横浜市外 年度別推移

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	合計
川崎市	16	25	24	21	12	14	10	20	16	32	12	7	8	11	10	9	11	258
横須賀市	8	10	13	8	9	8	13	24	20	31	27	18	18	11	19	19	15	271
東京都	16	15	19	6	6	7	6	17	12	15	7	10	12	21	13	9	14	205
藤沢市	8	22	18	17	7	8	4	9	5	14	8	7	13	15	7	4	5	171
大和市	1	8	3	4	4	6	8	13	12	13	5	6	7	14	3	4	5	116
相模原市	6	11	8	5	1	6	1	5	6	8	3	3	4	5	2	1	3	78
海老名市	4	4	5	3	3	2	5	4	1	8	5	5	5	4	1	1	2	62
逗子市	3	4	5	4	5	5	2	0	3	4	6	0	1	3	4	0	2	51
県内郡	4	5	2	3	3	5	2	3	4	6	1	0	1	7	4	0	1	51
厚木市	4	6	3	1	6	4	3	2	0	2	2	2	2	2	1	3	1	44
平塚市	4	5	3	2	3	1	4	5	2	6	6	4	2	2	2	0	2	53
鎌倉市	3	2	4	3	4	4	3	2	3	5	1	3	1	2	3	4	1	48
座間市	2	4	2	4	2	3	1	3	6	3	1	3	0	1	1	0	2	38
綾瀬市	2	0	3	0	3	2	2	7	3	2	2	0	2	3	0	3	3	37
伊勢原市	1	5	0	1	3	3	4	4	0	2	0	1	1	0	0	0	0	25
茅ヶ崎市	7	5	0	0	0	0	4	5	0	10	2	3	3	4	5	1	2	51
秦野市	2	7	2	1	5	1	1	1	0	1	1	0	3	3	0	0	1	29
小田原市	3	4	5	2	2	1	1	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	23
三浦市	0	0	0	1	1	2	2	2	2	0	2	2	2	2	0	1	1	20
千葉県	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	5
静岡県	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	6
南足柄市	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
茨城県	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
京都府	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
宮城県	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
埼玉県	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
兵庫県	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
富山県	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
愛知県	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
北海道	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
長野県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
未聴取	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
計	97	146	122	89	80	83	76	127	100	164	94	77	87	111	76	60	72	1661

第2章 2022 年度 事業報告

よこはま若者サポートステーションの支援は、個別相談、プログラム、地域ネットワークの3本の柱で構成されているが、2016年度から「サポステ利用の入口をより広く、サポステから就労への出口をより多く」できるよう、地域ネットワークを入口事業と出口事業に整理し、相談員の中の役割分担も明確にして各事業に取り組んできた。



第2章では、①入口事業、②相談事業、③プログラム事業、④出口事業に加え、職員の人材育成、研鑽のために実施した⑤職員研修について報告する。

1. 入口事業報告

入口事業は、よこはまサポステを利用する若者や保護者、その紹介元である地域の支援者、学校関係者に対して、効果的かつ効率的な受け入れ体制を整える役割を担うものである。対外的には(1) 地域ネットワークとの「連携窓口」として支援者・学校関係者からの相談申込・問合せへの対応、(2) よこはまサポステ説明会やセミナーの開催といった「広報活動」、(3) 学校や区役所への「出張相談」の3つを実施し、多くの若者ができるだけスムーズにサポステ支援につながるための取り組みを行っている。

以下、入口事業の実績を(1) 連携窓口、(2) 広報活動、(3) 出張相談の順に報告する。

(1) 連携窓口実績

よこはまサポステでは、他機関からの紹介でつながる場合は、本人や保護者からの直接の連絡でなく、可能な限り事前に担当の支援者からご連絡いただくようお願いをしている。事前に支援者との間で、よこはまサポステの支援内容や他機関の利用可能性についてすり合わせておくことで、本人に不利益となるミスマッチを防ぎ、サポステやその他適切な支援機関につなぐことができる。

下表は、地域の支援者からの相談申込・問合せ連絡件数を各機関の種別ごとに集計したものである（教育機関に関する実績は(3) 出張相談の「①学校連携事業」で集計）。

本件数には、よこはまサポステの相談申込に至った連絡に限らず、ニーズや状況、期待する支援内容を聴き取った結果、より適切と考えられる他機関を紹介したものも含まれる。

他機関からの相談申込・問合せ件数

連携先	申込・問合せ件数		
	2020年度	2021年度	2022年度
市内生活支援課（生活保護）	20	13	26
市内生活支援課（生活困窮）	5	3	7
市内高齢・障害支援課	7	2	2
横浜市青少年相談センター	7	8	20
地域ユースプラザ（区役所出張相談含む）	2	1	6
かながわ子ども・若者総合相談センター	0	2	2
就労支援機関 （ハローワーク、かながわ若者就職支援センター、職業訓練校など）	2	4	6
医療機関	3	4	16
障害に関する支援機関 （発達障害者支援センター、就労支援センター、基幹相談支援センター、就労移行支援事業所など）	17	19	14
少年・児童関連 （横浜家庭裁判所、児童相談所など）	8	5	4
その他（横浜市の市役所、他団体、他サポステなど）	13	8	10
申込・問合せ件数合計	84	69	113

2022年度は、この2年間減少傾向だった問合せ件数が大幅に増加し、コロナ禍以前（2019年度：130件）の数値に肉薄した。その理由として、後述のよこはまサポステ説明会をオンラインから全て対面での開催に切り替えたことで、他機関の支援者が弊所へのリファールを検討しやすくなったことが考えられる。

以下、増加が顕著だった機関についてその傾向を述べる。生活支援課（生活保護・生活困窮）の件数が最も多く、計33件の問合せがあった。本人に就労意欲はあるが、働くにあたっては課題の整理や方向性の検討が求められる方、就労先が決まりはするものの、短期間での離転職を繰り返している方、ひきこもり支援や居場所支援は本人の抵抗感もあって利用に至らないが、就労との切り口であれば支援機関の利用に踏み切れそうな方など、様々な状態像、ニーズを有する方に関する問合せがあった。各区の問合せ状況でみると、0件から7件まで幅が見られた。よこはまサポステからの距離や各区の状況など考慮すべき点は様々あるが、サポステの支援内容や役割の認知度、連携した経験がある担当者があるか否かは件数に影響していると考えられる。

加えて、2022年度は医療機関（精神科・心療内科）からの問合せが16件と大幅に増加した。サポステ説明会に参加いただいた医療機関から4件の問合せがあったことに加え、既存のケースで連携を取る機会があった医療機関からの紹介も見られた。具体的には、症状が落ち着いて、次のステップとして就労に進みたいが、様子を見ながらじっくり準備を進めていきたい方、障害者枠での就労を検討しているが気持ちが固まっておらず、一般枠での就労と併せて検討していきたいという方の紹介などである。

また、横浜市青少年相談センターからも20件の問合せがあり、近年では最多であった。センターでの相談やグループ活動を経た後、就労に向けての次のステップとしてよこはまサポステの利用に至るケースが窺えた。また、2022年度はセンターの利用者向けのサポステ紹介セミナーも開催し、そこから利用につながった方もいた。

(2) 広報活動実績

広報活動の軸として「よこはまサポステ説明会」を毎年度実施している。多くの支援者、学校関係者と直接顔を合わせる機会を設け、地域の支援者の方々によこはまサポステの機能や雰囲気を知っていただくことで、支援者の方を通して、より多くの若者によこはまサポステを知ってもらうことを目的とする。

説明会の開催にあたっては、横浜市内18区役所やハローワーク、医療機関、基幹相談支援センター、地域ケアプラザ（横浜市独自の地域福祉・保健拠点）、学校関係者などの関係機関宛に案内を郵送した。説明会の内容は、よこはまサポステの支援内容や実績、事例の紹介、利用の仕方の紹介である。

以下に、よこはまサポステ説明会やセミナーの開催などの広報活動の実施回数の推移を示す。

よこはまサポステ説明会 実施回数・人数

	2020年度		2021年度		2022年度	
	実施回数	参加人数	実施回数	参加人数	実施回数	参加人数
支援者対象（対面）	4	72	0	0	8	99
支援者対象（オンライン）	5	34	7	74	0	0
保護者対象（対面）	—	—	—	—	1	5
計	9	106	7	74	9	104

2022年度はよこはまサポステ説明会を対面形式に一本化して開催した。2021年度は、オンラインツールの使用に制限のある支援機関（行政機関、教育機関など）からの申込みが大きく減っていたが、対面開催を再開したことで、多くの行政機関の方にご参加いただくに至り、実際にその後の問合せ件数も増加した。

また、2022年度は、保護者を対象としたよこはまサポステ説明会も初めて開催した。2021年度に外部機関の依頼で保護者向けセミナーを実施したところ、サポステの存在を初めて知ったとの声も多くいただき、実際に説明会后によこはまサポステの利用につながった方もいた。その経験も踏まえ、2022年度は積極的に保護者の方にもアプローチするため、よこはまサポステ主催で説明会を実施した。参加者自体は5人と少数であったが、参加をきっかけにサポステの相談につながった方もいた。

その他のよこはまサポステに関する説明の機会として、「ソーシャルワークの視点を持った教員の養成研修」（神奈川県立総合教育センター主催）と「不登校児童・生徒、高校中退者等のための不登校相談会・進路情報説明会」（神奈川県教育委員会子ども教育支援課主催）の2つに参加した。

(3) 出張相談実績

次に、県立高校への定期訪問を含む「学校連携事業」と泉区生活支援課での出張相談を主とした「泉区における就労困難な若者の社会参加促進事業」の実績を報告する。

①学校連携事業

学校連携事業では、若者が抱える困難が長期化・複雑化する手前で支援することの重要性、特に学校教育から離れる移行期における支援の大切さを踏まえ、在学中から中退、卒業後に至るまで切れ目のない支援を届けることを目指している。主な事業内容としては、学校関係者（教職員、就職担当者、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど）からの相談申込・問合せに対応する他、学内での相談やセミナーの実施。県立高校全日制1校・定時制2校での月1～2回の定期訪問である。学校連携事業の連携学校数の推移を以下に示す。

学校連携事業実績

	2020年度	2021年度	2022年度
連携学校数 ※年度内に連絡をとった学校	34	35	33
うち定期訪問実施校	3	3	3
うちセミナー実施校	4	5	5
うち新規登録学生の在籍校	20	30	28
新規登録学生数 ※学校連携事業を経由してよこはまサポステ登録につながった学生数	36	54	38

学校連携セミナー実施回数

	2020年度	2021年度	2022年度
学校関係者対象セミナー（回数）	1	1	1
学生・生徒対象セミナー（回数）	5	7	8
保護者対象セミナー（回数）	0	2	2
計	6	10	11

2022年度内に連携した学校は、計33校と大きな増減は見られなかった。なお、学校関係者からの相談申込に限らず、新規登録者の中には在学中の学校の就職支援課や学生相談室のカウンセラーから情報提供を受け、自ら相談を申し込んだ学生も少なくない。上記の連携学校数には、学生の相談利用にあたってよこはまサポステから連携の依頼をした実績も含まれる。新規登録をした学生の内訳として、高校、大学の卒業年度の学生や中退が見込まれる学生が多かった。

また、2022年度はこれまで連携を続けてきた学校からの問合せ数が多く、既によこはまサポステにつながっている学生の支援を通じて積み重ねた信頼関係の重要性を再確認するに至った。今後も具体的な支援内容や事例、対象となる生徒・学生像を学校関係者に丁寧に伝え、情報共有を図っていくよう心掛けたい。

県立高校における定期訪問実績

	田奈高校			横浜翠嵐高校（定時制）			希望ヶ丘高校（定時制）		
	2020年度	2021年度	2022年度	2020年度	2021年度	2022年度	2020年度	2021年度	2022年度
定期訪問回数	12	16	16	18	20	16	15	12	13
延べ相談件数	34	35	29	48	42	38	17	31	38
相談利用学生数	16	15	9	13	10	7	14	9	14
うちよこはまサポステ登録につながった人数	0	1	2	4	3	5	0	2	6

定期訪問校に関して、訪問回数や相談件数に大きな変化はなかったが、出張相談をきっかけとして、よこはまサポステの利用につながった生徒の数は増加した。ただ、その中で見受けられた課題として、相談利用者の学年が、卒業年次の就職活動を控えた生徒に偏り、1、2年生の利用が減少していたことが挙げられる。

上記の生徒の利用が減少している背景の一つに、これまで出張相談を利用していた生徒を受け持つ教員の異動や退職が挙げられる。ただ、実際には早期に支援が入ることのメリットは大きく、早目に就労のイメージを持てるとよい、学校以外との地域社会とのつながりを確保した方がよい生徒などに対して、在学中のアルバイト経験や社会資源とつながる機会を提供することが可能になる。年度で教員の体制も変わる学校現場において、新たに赴任した教員に対して出張相談の利用方法や対象層を伝えるなど、教員ごとでなく学校単位で継続的に活用していただくための取り組みを検討したい。

②泉区における就労困難な若者の社会参加促進事業

本事業は、泉区独自の委託事業として2013年度に始まり、2022年度で10年目となる。区内在住の生活保護、生活困窮世帯の若者とその保護者を対象に、ケースワーカーや自立相談支援員、就労支援員との連携のもと、若者の社会的自立に向けた意欲や自信の向上、就労を含む社会参加の促進を目的とした支援を行っている。主な事業内容は区役所内での個別相談・家庭訪問である。

よこはまサポステの相談員2人が月に2～4回交替で泉区役所に出向き、生活支援課内の個室にて1日5枠（1枠50分）の枠組みで、担当ケースワーカーから利用を勧められた若者、保護者との個別相談を実施している。個別相談の実績を下表に示す。

社会参加促進事業 出張日数

	2020年度	2021年度	2022年度
出張日数	28	32	42

個別相談・家庭訪問 実施回数

	2020年度	2021年度	2022年度
個別相談回数（若者）	71	57	106
個別相談回数（保護者）	2	1	0
家庭訪問回数（若者・保護者）	4	6	3
計	77	64	109

相談利用人数（実数）

	2020年度	2021年度	2022年度
相談利用人数（実数）	20	14	18
うち新規利用人数	4	7	4
うちサポステ登録につながった人数	1	1	3

ケースワーカー相談件数

	2020年度	2021年度	2022年度
相談件数（ケースワーカー・自立相談支援員）	27	21	36

2020年度と2021年度は緊急事態宣言などの影響などで予定していた出張日数（42回）を達成できなかったが、2022年度は予定していた回全てを実施することができた。

それに伴い、個別相談の件数も大幅に増加した。ただし、その増加には出張日数以外の要因も考えられる。一つには、年度をまたいで相談を継続している利用者が多いことが挙げられる。必ずしも長期の支援が望ましいとは限らないが、継続的な支援が必要な利用者との関係性を築いている成果ともいえる。次に、区の職員（ケースワーカー・自立相談支援員）からの相談件数も増加し、支援者同士のコミュニケーションが以前より多くとれていることも、個別相談件数の増加の一助になっていると考えられる。2023年度も引き続き、区の職員との密な連携のもと、利用者の利益により資する相談体制を維持したい。

2023年度に向けて

（1）連携窓口

2022年度はコロナ禍で減少傾向だった問合せ件数が例年の水準に回復した。このことは、地域ネットワークとの「連携窓口」として、支援者、学校関係者からの相談申込・問合せに対応するととの入口事業の役割を果たした成果と考える。2023年度も引き続き、対面でのよこはまサポステ説明会の継続に加え、日々の業務を通じて地域の支援者と信頼関係を構築していくよう心掛けたい。

（2）広報活動

広報活動においては、対面での説明会開催を継続したい。また、保護者説明会においては、企画内容や周知方法を見直し、よこはまサポステの支援を必要としている世帯に向けて、開催情報を届けていけるような取り組みを検討したい。

（3）出張相談

泉区事業に関して、その実績をみるとコロナ禍の影響を脱してきたと考えられる。継続した相談が行えるようになってきたことを土台に、2023年度は本人の社会参加に向け、具体的な活動につながるような関わりの方法も検討したい。

学校連携事業においては、教員の異動などがあっても、出張相談を柔軟に活用していただくための学校への働きかけを意識していきたい。2026年度には定期訪問校である田奈高校が麻生総合高校と統合、横浜翠嵐高校校定時制が神奈川工業高校校定時制と統合されることが決定した。この動きに伴い、各学校で築いてきた出張相談の仕組みが失われる懸念もある。そのため、これまで出張相談をきっかけに関わることができていた、中退の見込みのある生徒や就職活動において早期の支援を要する生徒などに対して、引き続き支援を提供していくための工夫や仕組みづくりを行っていきたい。

【文責：温田祐希】

2. 相談事業報告

よこはまサポステにおける個別相談

よこはまサポステでは、個別相談を支援の主軸とし、個々の利用者のありたい姿に近づけるよう、自己決定を尊重し、社会へとつないでいく支援を重視している。入口事業、プログラム、出口事業といった内部の他事業についても、個別相談という基盤が安定してこそ、効果的かつ相互補完的に機能するものである。

それゆえ、相談事業では、初回相談の段階から、若者の主訴とその状況を丁寧に聴き取り、それらの背景にある課題・強みを見立て、支援の方針や具体的な取り組みについて、可能な限り本人と確認、共有を図りながら、本人主体のよりよい支援を実現できるよう日々努めている。

新横浜サテライト

よこはまサポステは、横浜市北部地域（青葉区、都筑区、緑区、港北区）の利用者や支援者が利用しやすくなるよう、新横浜サテライトを設置している。現在、横浜市北部在住の利用者には原則としてサテライトを利用していただいている。新横浜サテライトでは、よこはまサポステと同様の支援を提供し、プログラムについてもどちらの登録者も参加できる体制を整えている。新横浜サテライト専任の相談員は配置せず、よこはまサポステの相談員が曜日交替で出張して相談を行っている。開所日は火～金の週4日とし、2022年度は職員8人が新横浜サテライトで相談にあたった。

相談実施状況（よこはま・サテライト）

2022年度は、電話・オンライン（Zoom）相談を活用する体制から、原則対面相談の方針に戻していくこととした。その理由は、社会との接点が限られる若者にとって、外出の準備をして相談に出向くこと、直接顔を合わせて話をする機会は格別と考えるためである。

職員全員でその方針を共有し、対面相談の再開を積極的に提案した結果、2021年度は対面相談の比率が5割であったが、2022年度は8割を超える状況となった。2023年度も引き続き、利用者の事情に合わせて柔軟に電話・オンライン（Zoom）相談を活用しつつ、対面で直接話す機会を大切にしていく。以下に個別相談の実績を示す。

よこはまサポステ・新横浜サテライト 個別相談実績

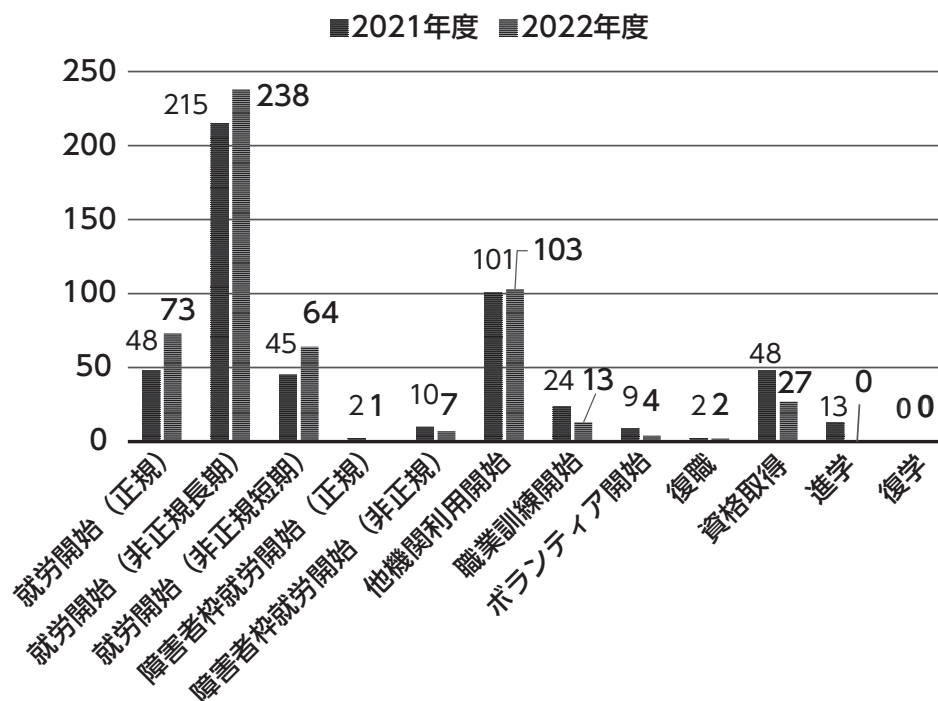
延べ相談件数	2021年度						2022年度					
	よこはまサポステ		サテライト		計		よこはまサポステ		サテライト		計	
	対面相談	Zoom 電話・ 相談	対面相談	Zoom 電話・ 相談	対面相談	Zoom 電話・ 相談	対面相談	Zoom 電話・ 相談	対面相談	Zoom 電話・ 相談	対面相談	Zoom 電話・ 相談
若者	4,673	4,754	702	682	5,375	5,436	8,265	1,548	1,135	314	9,400	1,862
保護者	33	52	2	4	35	56	77	18	7	1	84	19
その他(支援者など)	5	14	0	10	5	24	8	5	0	0	8	5
計	4,711	4,820	704	696	5,415	5,516	8,350	1,571	1,142	315	9,492	1,886
	9,531		1,400		10,931		9,921		1,457		11,378	

個別相談における支援結果

よこはまサポステでは利用者の変化を捉える1つの基準として、個別相談を行う中で生じた個々人の動き・変化に関わる件数を集計している。

進路決定件数（正規、非正規長期、非正規短期の就労、職業訓練、進学）に加え、よこはまサポステ独自に作成した22項目（就労・進学関連：12項目、その他：10項目）である。2021年度と2022年度の件数を以下に示す。

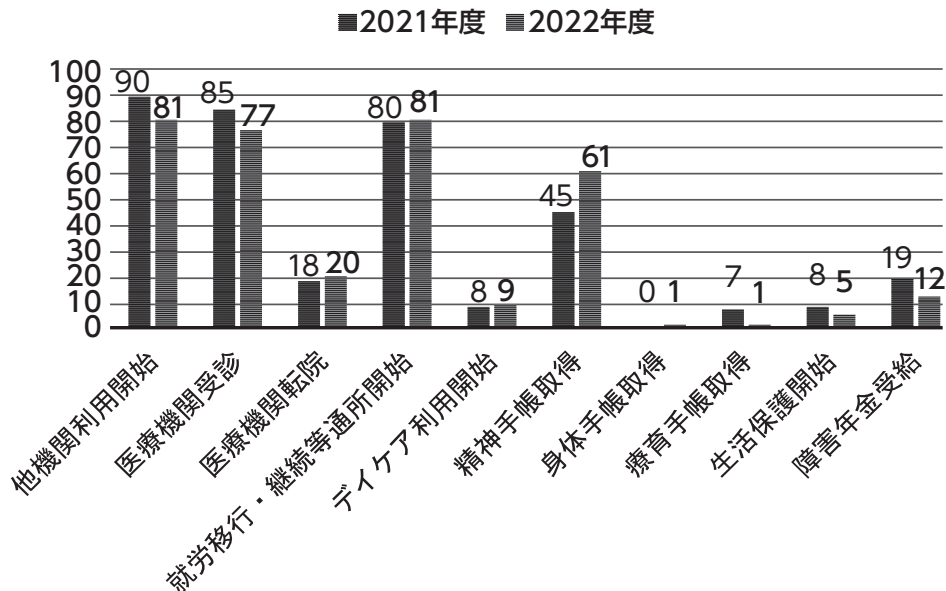
■個別支援結果（就労・進学関連）※よこはまサポステ・サテライトケース合算



2021年度と比較して、「就労開始（正規）」の件数が25件増加した。内訳として、事務職とIT関連職への就労決定数が倍増し、次点で生産工程職、サービス業、建設業に関わる職に就いた者が多かった。加えて、「就労開始（非正規長期）」の件数も増加し、こちらも事務職が多かった。正規では少なかったが、非正規では販売職と清掃職への就労決定も複数件見られた。

また、「他機関利用開始」について、横浜新卒応援ハローワーク、かながわ若者就職支援センター、ハローワーク横浜、東京しごとセンターが複数件見られた。よこはまサポステで就職活動の方向性を整理した後、直接求人を紹介したり、インターン系のプログラムが充実していたりする支援機関の利用を始める流れが窺えた。

■個別支援結果（就労・進学以外）※よこはまサポステ・サテライトケース合算



「他機関利用開始」について、市内4か所のユースプラザと生活支援センターの利用件数が多く、居場所支援を提供している支援機関への紹介が目立った。その他では障害者就労支援センターの利用も多かった。

「医療機関受診」のうち、よこはまサポステで紹介状を作成した上で受診を開始したケースの割合が2021年度を上回った。就労に向けて受診を開始する事例も多く、「精神障害者保健福祉手帳」の取得件数増加との関連も窺えた。また、「就労移行・継続等通所開始」の内訳として、就労移行支援事業所の利用が6割を超え、就労継続支援事業所B型と自立（生活）訓練事業所への通所がそれぞれ2割程度であった。

コンサルテーション・振り返り面談

相談事業には、個別相談の他、「コンサルテーション」と「振り返り面談」の2つの仕組みが含まれる。

よこはまサポステにおけるコンサルテーションとは、相談員（コンサルティ）が担当ケースで「困った」と感じた際に、経験豊富な相談員（コンサルタント）に相談する仕組みである。相談内容には、見立て・方針や具体的な対応策の検討、医療機関へのリファー、就労以外の問題をどう取り扱うかなどがあり、2022年度は727件（2021年度は454件）実施した。

また、コンサルテーションの枠組みの一つに「法律コンサル」がある。これは法人の顧問弁護士にケースで生じた法律に関わる困りごとについて、相談員とメールでやりとりを行う形で運用している。相談内容は、相続、家族間のトラブル、解雇、後見人、戸籍の変更などが挙げられる。2022年度は3件（2021年度は7件）実施した。

振り返り面談は、相談員が管理職と月に1回、1対1で行うスーパービジョンの意味合いを有する仕組みで、すべての担当ケースについて進捗や支援方針を確認し、必要に応じて指導も行うものである。個々の相談員の経験年数や専門分野によらず様々なケースに対応できるよう、上記の取り組みを行っている。

同行支援・ケースカンファレンスの実施状況

2022年度は、地域の社会資源との連携実績を可視化すべく、同行支援とケースカンファレンス件数の集計を行った。

「同行支援」は、他機関の利用（就労移行支援事業所、医療機関、区役所など）に際して、相談員が本人とともに出向く支援を指す。同行の目的は、支援者との情報共有や他機関、制度のスムーズな利用のためなどである。「ケースカンファレンス」は、サポステと併用して利用している支援機関との方針のすり合わせや役割分担などで打合せを行った件数を集計した。

■同行支援・ケースカンファレンス件数 ※よこはまサポステ・サテライトケース合算

	同行支援・ケースカンファレンス		
	よこはまサポステ	サテライト	合計
同行支援（件数）	149	17	166
ケースカンファレンス（件数）	36	1	37

「同行支援」に関しては、就労移行支援事業所、就労継続支援B型事業所、自立（生活）訓練事業所、精神科・心療内科、区役所（生活支援課、高齢・障害支援課、保険年金課）など様々な支援機関への同行が行われていた。「ケースカンファレンス」では、他機関を並行利用しているケースについて、複数回にわたり支援者と本人を交えて方針など検討しているものがあつた。

利用者本人に支援機関の情報を提供するのみでなく、確実に他機関につながる必要があると見込まれる場合、相談員が利用先の機関に連絡をとる、同行するなど利用者を他機関につなぐためのハブ機能を果たしているといえる。

2023年度に向けて

2022年度の個別支援結果や「同行支援」「ケースカンファレンス」の実績からは、よこはまサポステの相談において地域の支援者との連携が重要な機能を担っていることが改めて明らかになった。

2023年度は、引き続き利用者の利益を考えた丁寧な相談を心掛けつつ、よこはまサポステから他機関を紹介、併用する際などは、他機関の支援者との連携も重視して取り組んでいきたい。

そうした丁寧な支援を続けることが、支援機関同士の役割をお互いに理解し、地域全体としてより質の高い支援の提供を可能にすると考えるためである。広報活動を担う入口事業と併せ、日々の丁寧な支援を通してよこはまサポステの役割や機能を地域に発信していきたい。

【文責：温田祐希】

3. プログラム事業報告

2022年度のプログラム実績

よこはまサポステのプログラムは、2020年3月に始まった新型コロナウイルスの感染拡大防止対策に伴い、2021年度までオンライン形式、対面形式を併用して開催した。オンライン形式のメリットも見受けられた一方、利用者にとって、プログラムが外出機会、対面での社会参加機会を提供する意義も強く感じたことから、2022年度はすべてのプログラムを対面形式で開催した。

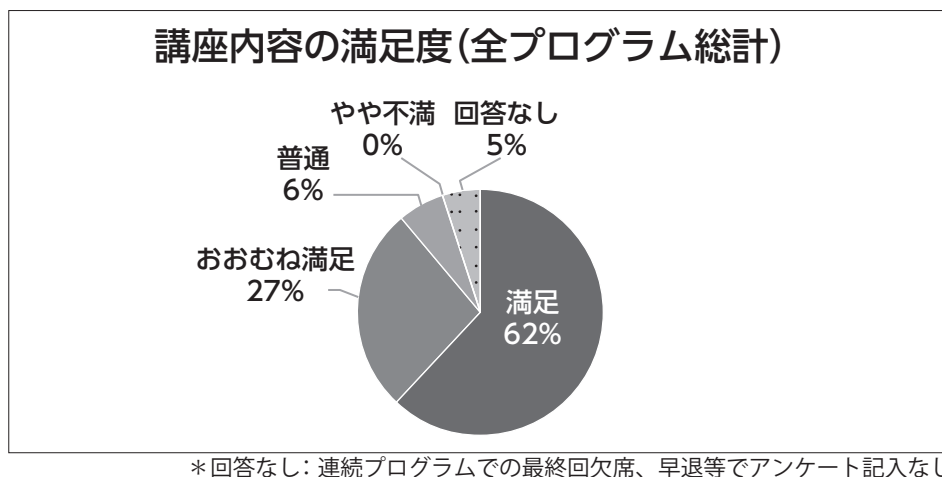
2022年度のプログラム事業実績は、実施回数が計269回（1日に2枠開催のプログラムは2回でカウント）、延べ参加人数は1,516人だった。延べ参加人数は、昨年度（2021年度）の1,296人を220人上回った他、近年で最多であった2018年度の1,435人も超える数であった。各プログラムの実施回数、延べ参加人数は後述する。

その他の実績として、各プログラムの申込充足率（定員に対する申込数、当日欠席と事前キャンセル含む）も平均して8割を超えた。また、SST、アル活（面接編）、自己プロデュースセミナー等の一部のプログラムでは満席が目立ち、キャンセル待ちの利用者も年間で計71人と、需要に対して申込枠数が不足する状況が見られた。本事業の「個別相談を補完するものとして、誰もが利用しやすい、安全かつ効果的な活動機会を提供する」との目標を鑑みても、プログラムの実施回数、ラインナップの拡大は早期に着手すべき課題といえる。

プログラム満足度

2021年度にすべてのプログラムで参加者アンケートを導入し、2022年度も引き続き実施した。項目内容は、共通項目として講座内容の満足度を問う項目（満足／おおむね満足／普通／やや不満／不満の5件法）と各プログラムで聴取したい内容（例：印象に残ったこと・参考になったこと、今後やりたいこと）とした。実施方法は、プログラム終了時に配布し記入を依頼し、その内容はプログラム運営、個別相談に活かす目的で、担当相談員、プログラム担当、外部講師と共有する旨を伝えた。

共通項目の「講座内容の満足度」の結果は下図の通りである。満足は62%（2021年度：63%）、おおむね満足は27%（2021年度：31%）と、満足～おおむね満足で9割弱と昨年度と変わらず高い割合を示した。



「コグトレ」プログラムの実施

2022年度の新規プログラムとして、外部講師を招いて「コグトレ」を実施した。2022年10月～2023年1月の4か月間、1回90分、週1回（月4回1クール）の連続講座で各クール定員8人にて実施した。実施回数は16回、延べ参加人数は114人、全クールを通しての講座内容の満足度は、満足71%（22件）、おおむね満足10%（3件）、普通1%（1件）と8割以上が満足したとの回答で、好評を得た。

講座タイトルのコグトレ®（Cog-Tr）は、立命館大学の宮口幸治教授（医学博士・臨床心理士）が考案した認知機能トレーニング（Cognitive ○○ Training：○○に各機能が入る）の略称で、身体面（不器用さの改善）、学習面（基礎学力の土台作り）、社会面（対人スキルの向上）に対応する3つのトレーニングで構成される。適用対象は子どもから高齢者まで幅広く、覚える、数える、写す、見つける、想像する等の認知機能の向上を目指すワークを実施するものである。

＊参考文献：コグトレーみる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング（2015）宮口幸治，三輪書店



本プログラム導入の経緯は、コグトレ®が扱う認知機能について、よこはまサポステの利用者が抱える就労、生活上の困難の背景にも、それらの弱さが関連すると考えたことにある。また、継続参加を通じて、利用者が自己理解を深め、弱い部分の強化を主体的に図るといったトレーニング要素が目新しく、新たな試みとして開催に至った。

本プログラムは、株式会社未来 Mix 篠田敏子先生と職員の方に講師を依頼し、座学で行う「コグトレペーパー」と「運動ワーク」（紙の棒を使ったワークとビジョントレーニング）を実施した。講座の初回と最終回には、自身の認知機能の特徴と参加後の変化を見る目的で「コグトレテスト」を行った。

さらに、参加者の自己理解を深める一助として、コグトレ®が対応する認知機能の特徴を参考に作成した「事前事後アンケート」（事前と事後で同じ項目に回答）も配布し、上記のテスト結果とは別に、参加前の困り感と参加後のそれらの変化を可視化できるようにした。

<アンケートの使い方>
事前アンケート：プログラム当日に記入して持参/その場でご記入ください。プログラム担当が把握します。
事後アンケート：プログラム最終日に記入いただきます。本アンケート用紙は、担当相談員から送附します。

《コグトレ》事前・事後アンケート

参加グループ： 2022 年 月クール

名前： _____

◆事前アンケート(プログラム参加前に回答してください)

1. 以下に「苦手と思う力」「伸ばしたいと思う力」があれば、□にチェックをつけてください(複数回答可)

☐ 目で見たものを覚える(→当てはまるものに✓：文字・数字・人の顔・場所・その他)

☐ 耳で聞いたことを覚える(→当てはまるものに✓：文字・数字・文章・その他)

☐ 文字を書く、写す ☐ 計算をする ☐ 図形の問題を解く ☐ 物事の違いを見つける

☐ 地図を見る ☐ 文章を読む ☐ 素早く作業をする ☐ 物事の優先順位をつける

☐ 集中力を保つ ☐ 計画的に物事を進める ☐ その他()

2. 日常生活や仕事の中で、改善したいと思う困りごとがあれば、ご記入ください

()

◆事後アンケート(プログラム参加後に回答してください)

3. 以下で、コグトレを通じて「変化したいと思う力」があれば、□にチェックをつけてください(複数回答可)

☐ 目で見たものを覚える(→当てはまるものに✓：文字・数字・人の顔・場所・その他)

☐ 耳で聞いたことを覚える(→当てはまるものに✓：文字・数字・文章・その他)

☐ 文字を書く、写す ☐ 計算をする ☐ 図形の問題を解く ☐ 物事の違いを見つける

☐ 地図を見る ☐ 文章を読む ☐ 素早く作業をする ☐ 物事の優先順位をつける

☐ 集中力を保つ ☐ 計画的に物事を進める ☐ その他()

4. コグトレに参加して、変わったこと、気付いたことがあればご記入ください(2.で記入した困りごとを含む)

()

アンケートは以上で終了です。プログラムの振り返りにもご活用ください。

上記のアンケートは、全参加者 30 人のうち、事前 29 人（早退 1 人を除く）、事後 26 人（最終回欠席、早退 4 人を除く）が回答し、事前の「困り感」項目（複数回答可）では、耳で聞いた「文章」を覚える（21 人）、素早く作業をする（20 人）、集中力を保つ（19 人）、計画的に物事を進める（18 人）、物事の優先順位をつける（17 人）の回答数が多かった。一方、事後の変化項目では、集中力を保つ（20 人）、耳で聞いた「文章」を覚える（17 人）、物事の違いを見つける（14 人）の回答数が目立ち、自由記述内容と併せても、変化の実感を覚えた参加者が複数見られた。機能の強化を図るとの目的を鑑みても、本プログラムは有意義な取り組みであったと考える。

2023 年度に向けて

2022 年度の参加人数の増加と申込枠数の不足という課題を踏まえ、2023 年度は、既存プログラムの定員数と回数の拡大、それに伴う内容の改訂、新規プログラムの企画・実施を目標とし、個別相談と並行しての活動機会の確保・充実を図っていく。

プログラムの企画・実施にあたっては、私たちの声を届けよう！プロジェクト（第 3 章参照）で挙げた利用者の声に加え、同プロジェクトを受けて実施した全体会議ワークショップ（全体会議報告参照）にて職員間から出されたアクション案を活用することで、利用者のニーズに即した取り組み、個別相談との連携もより強化できるような工夫をしていきたい。

＜2022年度プログラムの実績＞

*よこはまサポステ、サテライト合算

プログラム名	内容	実施回数	延べ参加人数
ストレッチ体操 講師：藤巻かおり先生	月2回、定員8人。講師のレクチャーのもと、体を動かし、気持ちをほぐす場を提供する。自分の身体と向き合う、体力の維持・向上、集団場面に慣れるための一助とする。	24回	150人
学びなおし 講師：小園一水先生	月2回連続講座、定員6人×2枠。国語、英語、数学（算数）を個別指導形式（1枠75分）で学ぶ。個々のペースで取り組むことで、わからなかったことがわかる体験、苦手なことへの挑戦、またかつてできていたことを思い出す機会を持ち、自信や自己肯定感の向上につなげる。	46回 *1枠1回で カウント	178人
CBT（認知行動療法）	月4回連続講座（4～10月）、定員8人。考え方を変えると気持ちや行動が変わるとするCBT（認知行動療法）の基本を学ぶ。臨床心理士有資格者の職員による講義とワークを通して、自身の考え方のくせやパターンを知り、各自のパターンを踏まえて新しい考え方、別の見方をしてみる体験をする。	27回	151人
SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）	月2回、定員8人。職場で困りやすいコミュニケーション場面についてロールプレイ形式で練習することで、状況に適した対応の例を体験的に知る機会とする。参加者同士のフィードバックも通じて、自身のコミュニケーションの特徴や伸ばせるとよい点の自己理解も深める。	24回	177人
のんびりテーマ☆トーク	月1回、定員8人。よこはまサポステ唯一の利用者同士で話をする場として、毎回2つのテーマを選び、自身の考えや思いを話したり、他者の考えや思い、エピソードを聞いたり、共感したりする。参加者間で生まれた流れや雰囲気を楽しむ中で、複数人でのコミュニケーション場面への緊張や不安、固定観念を緩和する機会にもなる。	12回	116人
自己プロデュースセミナー 講師：杉本悟先生	月1回、定員10人。講師のレクチャーのもと、人前で自己紹介をする、発表する、身体のみで表現する等、普段行い慣れていないことをする場を提供する。個人でやるもの、複数人で取り組むもの、演劇要素のあるものと様々なワークに取り組む中で、人前での緊張や不安、失敗への不安等の緩和を目指す。	12回	96人

プログラム名	内容	実施回数	延べ参加人数
Word 講座 講師派遣:NPO 法人テレワークセンター横浜	月2回連続講座、定員8人。講師のレクチャーに沿って、Wordの基本操作を学ぶ。ビジネス文書とチラシ作成のワークを行う。	24回	145人
Excel 講座 講師派遣:NPO 法人テレワークセンター横浜	月2回連続講座、定員8人。講師のレクチャーに沿って、Excelの基本操作（一部の基本的な関数を含む）を学ぶ。名簿作成とグラフ作成のワークを行う。	24回	154人
アル活セミナー（履歴書・応募電話編）	月1回、定員6人。仕事の選び方や履歴書の書き方、自己PRの考え方等をレクチャー形式で学び、応募電話のかけ方はロールプレイ形式で練習する。アルバイト応募の方法を実践的に知ること、就職活動へのハードルを下げる。	12回	62人
アル活セミナー（面接編）	月1回、定員3人×2枠。面接での立ち居振る舞いや面接官とのやり取りをロールプレイで練習する。実際の面接を想定した練習から初めての面接体験まで幅広く対応する。繰り返し練習することで不安を緩和し、自信につなげる。	24回 *1枠1回で カウント	62人
働くまでの道のり	不定期開催、定員20人。様々な挫折や紆余曲折の経験を持ちつつ、現在仕事に就いている方（サポステの卒業生やその他）からこれまでのエピソードや現在思うこと等のお話を伺うことで、「自分も何とかなるかもしれない」との希望、仕事に向けてのイメージを持つ機会とする。	3回	48人
GATB	一般職業適性検査を受検する。	34回	93人
コグトレ 講師：篠田敏子先生（株式会社未来 Mix）	月4回連続講座（10月～1月）、定員8人。数える、覚える、写す、見つける、想像する等の認知機能の強化を目的としたコグトレ [®] は、対人スキルの向上や基礎学力の土台作り、身体機能の改善等につながるとされる。講師のレクチャーのもと、コグトレペーパーと運動ワークを通して、認知機能の自己理解と強化を目指す。	16回	114人
計		269回	1,516人

*仕事セミナー（屋根づくり、IT、製造業他）は「出口事業」を参照のこと。

【文責：津田容子】

4. 出口事業報告

「出口事業」は、就労を目指すサポステ利用者と地域の事業所や企業をつなげる取り組みを行っている。具体的には、ジョブトレーニング、仕事セミナー、職場体験プログラム（シゴトライアル）、企業見学会といった様々なメニューから成る。2022年度の出口事業は、職員2人が担当した。

コロナ禍の影響で多くの出口メニューを中止した2020年度の後、2021年度は受入れ事業所のルールや利用者の不安に留意しつつも、積極的にメニューを実施することで担当職員の活動量を徐々に増やしてきた。2022年度は感染対策緩和に伴い、メニュー実施数、就労決定数ともに例年の水準まで回復させることができた。以下、各メニューの実施内容と実績を述べる。

(1) 出口事業連携先の開拓

2022年度は、新たに約60事業所との接点をもった。新たな取り組みとしては、昨年度ユースポート横浜が法人として登録した「かながわSDGsパートナー」での活動と横浜市合同企業説明会での活動がある。

「かながわSDGsパートナー」とは、神奈川県がSDGsの推進に資する事業を展開している企業等を募り、その取り組みを発信するとともに、県と登録企業、および登録企業同士で連携してSDGsの普及促進活動を行う活動である（参考：神奈川県HP）。2022年度は毎月実施される「かながわSDGsパートナー・ミーティング」に2回登壇し、働きづらさを抱える若者の支援についての発表を行った。これにより若者の体験受入れや採用を検討するパートナー企業との連携を図った。

横浜市合同企業説明会は、横浜市が実施する企業説明会である。横浜市青少年局の紹介により出口事業担当職員が説明会に出向き、人材を募集する企業への働きかけを行った。

出口事業の実績としては、新しく29事業所より連携へのご快諾を頂き、そのうち24事業所と出口メニューの実施に至った。具体的には、ジョブトレーニング13事業所、職場体験プログラム（シゴトライアル）2事業所、仕事セミナー1事業所、見学受入れ8事業所である。

(2) ジョブトレーニング

よこはまサポステ開所当初から継続している仕組みである。一人ひとりのニーズに合わせて体験先や体験内容を個別にアレンジし、10回を1クールとして、最長30回までの職場体験を行う。複合的な課題を抱える利用者が挑戦することが多いメニューで、個別性の高いアレンジをする必要があるため、実施前にはそのケースの担当相談員と出口事業担当職員が、綿密に打ち合わせをしてから導入を決定している。1日3～4時間、週2日～3日程度の頻度で取り組むケースが多い。職種は多岐にわたっている。2022年度の実施件数は45件（延べ実習日数614日/39事業所）で、コロナ禍以前の水準に戻った。

ジョブトレーニングを経験した利用者の多くは、仕事への不安が軽減する、自分の得意不得意を理解して就職活動の方向が定まる、働く自信を得て応募活動を開始するといった変化を遂げる。また2022年度は体験者のうち5人が、ジョブトレーニング先で採用されるに至った。

(3) 職場体験プログラム（シゴトライアル）

人材を求める企業と連携して、体験のみではなくアルバイト就労への移行を前提とした職場体験プログラムを作り、「シゴトライアル」と名付けて実施している。利用者はアルバイト応募前提で体験に参加し、5日間の体験終了後に双方の合意があればアルバイト就労へと進む。2022年度は全9回実施した。実施業界はスーパー、リサイクル品販売であり、職種は店舗バックヤード作業、倉庫作業であった。

シゴトライアル概要

	内容
初日研修	・キャリア人生におけるアルバイト経験の意味 ・労働法の基礎知識 ・体験先業界案内 ・アルバイトのルール ・ビジネスマナーの基礎 ・職場見学
職場体験	・1日4時間 / 連続5日間 ・毎日、企業担当者の同席で振り返りを行う ・実習記録の作成と企業担当者からのフィードバック
評価	・採用、不採用の結果と全般的なフィードバック ・企業担当者から「笑顔・挨拶」「作業効率」「自主性」について5段階評価と評価の根拠を記載していただく
労働条件の確認	体験先で就労が決まった場合は、本人、企業、サポステの3者で労働条件の確認を行う

シゴトライアル実績

実施回数	参加者数	終了者数	就業者数	就労決定率 (就業者数 / 終了者数)
9	33	31	14	45.2

(4) 仕事セミナー

仕事セミナーとは、所内で開催するセミナーで、職業紹介や業界紹介などを行い、その後に希望者に対して、現場見学、採用面接、就職へとつなげていく仕組みである。2022年度は下記のセミナーを実施した。

若者の人材が不足している業界からは、サポステでのセミナー開催を希望する企業が多い。よこはまサポステとしては、利用者のニーズのある職種との一致度と、企業側の働きづらい若者への理解や配慮を確認した上で、実施を依頼している。

セミナー職種	セミナー実施数	延べ参加者数	応募者数	就業者数※
屋根づくり	4	11	0	0
外壁工事	2	10	0	0
環境サービス	4	27	3	4
製造業	4	16	1	0
警備	2	11	1	0
介護	3	18	2	2
派遣	3	31	0	0
小売（スーパー）	1	11	4	2
合計	23	135	11	8

※就業者数の一部に、2021年度にセミナーに参加し、2022年度に就業が決定した人数も含む。

(5) 企業見学会

仕事セミナーが職種や業界の知識を深めることを主要な目的の一つにしているのに対して、企業見学会は、求人募集がある企業と応募したい利用者とをマッチングするイベントとして開催している。参加者が直接企業に見学に行くため、仕事の内容や働く人々の様子を実際に見て知ることができる。それによって参加者は仕事内容を明確にイメージし、働く実感を持って応募に進み、入社後のミスマッチ防止にもつながる。企業側にとっても、短時間で多くの若者に直接出会うことができ、書類選考のみでは分からない、それぞれの人となりを知れる機会となるため、開催企業の方からも好評をいただいている。

2022年度は、小売り、家事代行サービスの2社（3回）実施した。

開催企業数	参加者数	応募者数	就業者数
3	9	9	3

(6) まとめ

出口事業による2022年度の就労決定実績および例年との比較は以下の通りである。

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ジョブトレーニング	11	9	6	6	5
シゴトライアル	20	17	3	11	14
仕事セミナー	19	12	3	7	8
企業見学会 / 説明会	7	5	8	3	6
求人その他	—	—	—	—	11
就業者数合計	57	43	20	27	44

2022年度はコロナ禍の影響は最小限にとどめ、例年通りの出口メニュー実施件数、就労決定件数の実績を上げることができた。その大きな理由は、コロナ禍への不安が薄まり利用者が積極的に就職に向けて動き出したこと、また受入れ可能な事業所も増えたことである。その他の要因には、新規開拓の機会を増やしたことが挙げられる。

前述の「SDGs パートナー・ミーティング」では、持続可能な開発目標の推進に取り組む県内の様々な企業と出会うことができた。SDGs が掲げる 17 の国際目標のうち、当法人が取り組む目標は主に、「4. 質の高い教育をみんなに」「8. 働きがいも経済成長も」「10. 人や国の不平等をなくそう」の3つである。同じテーマに取り組む企業はもちろん、その他のテーマに取り組みつつ、若者の受入れにも関心を持ってくださる企業と直接交流する機会を持てたことは貴重な機会であった。

企業にとって、働きづらさを抱える若者の職場体験受入れや雇用は、ダイバーシティや多様な働き方を検討し、実践するチャンスとなる。よこはまサポステではこれまで多数の雇用につながるケースを経験してきた。成功事例では、若者自身が得意なことだけでなく、課題も把握している。自分の苦手な作業や環境が分かっているからこそ、対処法を身に付けたり、職場の上司や同僚に協力を求めたりすることができる。そしてその提案に対し、職場の方でも対応できることだけでなく、できないことも率直に伝えていただく。若者と職場の両者が相互に理解をし、すり合わせをすることで、最終的には働き手も職場も持続可能な雇用が実現すると感じる。

出口事業担当職員や相談員は、メニューの実施を若者本人と事業所の方の相互理解の機会と捉え、多様な働き方、多様な活躍の場が今後もさらに増えていくよう引き続き取り組んでいく。

【文責：駒形直子】

5. 全体会議研修報告

ユースポート横濱では、全職員が参加する全体会議を毎月1回開催している。全体会議は、職員同士が顔を合わせ、法人や施設運営に関する実績報告と共有事項の伝達、職員が参加した外部研修の報告、主に相談支援に必要な研鑽を行う機会として機能している。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2021年度はすべてオンラインで実施したが、2022年度は隔月で開催方法を変え、引き続きオンラインで6回、また職員が顔を合わせ、コミュニケーションを取る機会も確保すべく対面で6回と交互の実施とした。

研鑽機会としては、毎月のケース検討に加え、職員もしくは外部講師が企画・実施するテーマ別研修を年間11回実施した。以下にその内容を挙げる。

■ケース検討（毎月）

テーマ	PCAGIP 法による事例検討
目的	援助専門職に適した新しい事例検討法とされる PCAGIP（Person-Centered Approach Group Incident Process）法：簡略な資料をもとに参加者全員で事例理解を深める形式で、簡便かつ相談対応に資する形での事例検討を行う。 主役は「事例」ではなく「事例提供者」であるとの上記手法の趣旨に則り、ケース運営をする相談員に資する検討の場とする。
手法	相談員2人が1ケースずつ事例提供を行い、2グループに分かれて検討する。「事例提供者を批判しない、メモはとらない」との共通ルールのもと、1人1問ずつ質問を重ねる中で、事例の詳細をグループ全体で共有する。検討の結果、支援や関わりについての多様なヒントが出ることを目指す。
時間	70～90分

*参考文献：新しい事例検討法 PCAGIP 入門 パーソン・センタード・アプローチの視点から（2013）村山正治・中田幸重、創元社

■テーマ別研修

①外部講師研修

テーマ	ジョブトレーニング研修（講師：ワーカーズコレクティブ協会 専務理事 松川様 / 出口事業担当職員）
講師	特定非営利活動法人ワーカーズコレクティブ協会 専務理事 松川由実様
目的	ジョブトレーニングの受入れ先事業所の理解、およびサポステ職員として事業所と関わる際の心構えの確認を行う。
手法	外部講師および出口事業担当職員によるレクチャー
時間	120分

テーマ	コグトレ研修
講師	株式会社未来 Mix 篠田敏子先生
目的	数える、覚える、写す、見つける、想像するといった認知機能の強化を目的としたトレーニングであるコグトレ [®] は、子どもから成人までの対人スキルの向上や基礎学力の土台作り、身体機能の改善等につながるものである。2022年10月より「コグトレ」をサポステプログラムに導入するにあたり、その内容や効果を事前に体験し、職員自身も認知機能に関する自己理解を深める機会とする。
手法	講師によるコグトレの概要と認知機能に関するレクチャーとコグトレワークを受検する。
時間	120分

テーマ	事例検討会
講師	中村心理療法研究室 精神科医師 中村伸一先生
目的	外部の専門家を招いてのサポステのケース検討を行う。検討を通じて、精神医学や心理学、家族療法といった専門的な視点を含むアセスメントのスキルを学ぶと同時に、相談におけるやりとりや関係性、プロセスの大切さを知る機会とする。
手法	一つの事例を職員全体で丁寧に検討する。事例提供者（相談員）は事前に資料を作成し、検討希望点、事例の概要、面接経過について当日発表する。講師と参加者からのコメント、質疑応答を行う。
時間	120分

②ロールプレイ研修

テーマ	ロールプレイ道場
目的	相談員役、利用者役に分かれ、相談場面のロールプレイを行うことを通じて、利用者を個々の人格として体験すること、相談員自身が相手と共に「今ここにいる」体験をすること、相談の実際場面において対処しなければならない諸問題を体験的に学ぶ機会とする。
手法	職員全体で3グループに分かれ、各グループにファシリテーターを配置。グループごとに課題を設定し、架空の事例や実際のケースを参考にロールプレイ、振り返りを行う。
時間	120分

テーマ	「死にたい気持ち」の取り扱いについて
目的	利用者にとって身近な相談者であるサポステの相談員が、利用者の死にたい気持ちを最前線で受け止める場合も少なくない。危険性を感じた場合の相談の仕方、利用者やその周囲で自殺が起こった場合の対応、ケアについて実践的に学ぶ。
手法	公認心理師有資格者による講義およびロールプレイの実施。自殺に関する現状（統計情報含む）、死にたい気持ちやその背景、死にたい気持ちを打ち明けられた場合の具体的対応についての講義を行う。実際の相談場面を想定して危険度のアセスメント、対応をロールプレイで体験する。
時間	180分

③相談支援に資するスキルアップ研修

テーマ	個人情報保護研修
目的	個人情報の管理がなぜ必要かと「法人職業倫理綱領」「ソーシャルメディア使用上の規定」「個人情報保護法」等の個人情報に関わる方針・既定の再確認を行う。事例も用いての具体的な運用上の注意点、漏えい等の事案が生じた場合の対応についても職員全員で共有する。
手法	講義形式
時間	90分

テーマ	相談員のための自己点検ワークショップ
目的	相談員である自身が現状でどのような課題を抱え、どんな強みを持ち、どのようなスキルアップを図るとよいかの検討の場を設ける。相談員としての自身を把握・分析する、日々の相談業務における成長や変化、学びについて客観的に振り返る、自身に固有する特徴（長所、短所の両面）について知ることを目的とする。
手法	講義と個別ワークの実施。相談員のスキルとは何か、また経験年数によってどんな変化が生じるかといった研究知見も引用した講義を行う。その上で講義で扱った情報やその他相談員に求められるスキル、よこはまサポステで重視する点をもとに作成した「自己チェックシート」を用い、相談員としての自身を振り返る機会をもつ。
時間	120分

テーマ	改めてサポステを知る、業務に活かす
目的	①なぜ、どのような経緯で国がサポステ事業をするようになったか、サポステ事業とは何を求められているのか改めて学び、事業についてのリテラシーを高める。他機関に対しても自信をもってサポステとは何かを説明できるようになる。 ②マクロな事業理解と日々の業務が関係していることを学ぶ。具体的には、さまざまな報告・事務作業の意味を理解することと、機関の機能によって相談の範囲が規定されていることを確認して日々のケースに活かすことを学ぶ。
手法	日本における若者支援の歴史、サポステの成り立ち、現在の仕様書の確認や横浜市の現状などについて講義。事業内容を踏まえたうえで、改めてサポステの相談範囲について全体で考える。
時間	120分

テーマ	発達障害の理解－支援する上で頭の片隅に置いておきたいこと
目的	“発達障害”との診断名はサポステ支援において見聞きする機会が多いが、その特徴や診断基準などに関する適切な知識がないと、表面的な本人理解にとどまったり、単なるレッテル張りとなってしまう懸念もある。発達障害との概念がどういった経緯で発展し、医療や福祉、行政の中でどのように扱われてきたのかを概観することで、発達障害に関する知識を確認し、学び直す機会とする。
手法	臨床心理士有資格者による講義
時間	120分

テーマ	家族療法に学ぶケース理解－支援に活かす「家族」の視点
目的	支援に有用な視点、切り口の一つとして「家族療法」の考え方を知り、ケースの多面的な理解に活かすことを目的とする。外部講師研修の「事例検討会」で扱ったケースを例に、家族システム論の考え方、家族関係や両親の離婚が子どもに及ぼす影響、進路選択時の影響（ライフサイクルの視点）など、サポステで支援を行う上で意識しておく点を中心にレクチャーと個人ワークで学ぶ。
手法	臨床心理士有資格者による講義と事例を用いた個人ワーク
時間	120分

④ワークショップ

テーマ	声プロの「声」を支援に活かすワークショップ
目的	サポステ利用者を対象に実施した「私たちの声を届けよう！プロジェクト」（第3章参照）のアンケートと座談会を通じて集まった利用者の生の声を受け、職員自身が感じたことを共有するとともに、これらの声を支援に活かすためのアクションを職員全員で考える。挙げたアクションは今後の各事業の取り組みに活かすとともに、本ワークショップ自体も東京大学大学院教育学研究科博士課程に在籍する職員（津田容子）の研究対象とし、社会への発信につなげる。
手法	2020年度に作成した「よこはま若者サポートステーションのロジックモデル」を軸に、若者、企業、行政・関係者への働きかけの3グループに分かれ、ワークショップ形式で実施した。
時間	120分

第3章 2022 年度の取り組み

第3章では、2022年度に法人として取り組んだ下記2点について、報告する。

1. 私たちの声を届けよう！プロジェクト～生きづらさを抱える若者のリアルな声を社会に届けるための取り組み～
 2. 令和4年度「横浜市就職氷河期世代相談サポート付集中プログラム事業」事業報告書
(横浜市への事業報告書より一部抜粋)
-
-

1. 私たちの声を届けよう！プロジェクト ～生きづらさを抱える若者のリアルな声を 社会に届けるための取り組み～

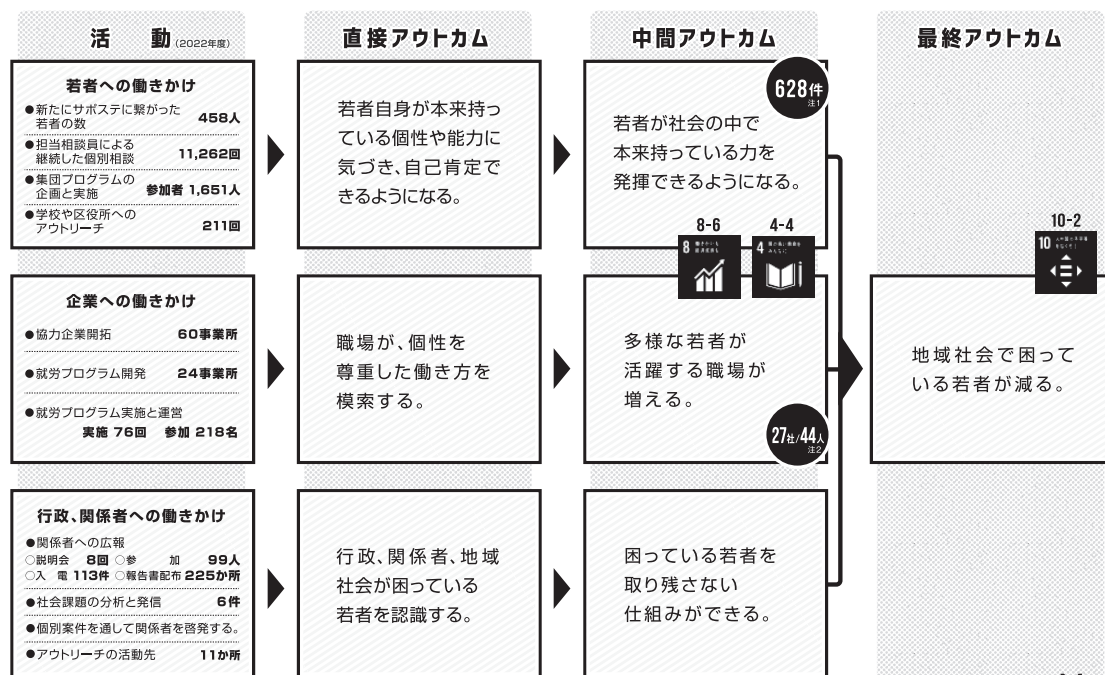
当法人では、全職員で2020年度に「よこはま若者サポートステーションのロジックモデル」作りに取り組んだ。以降、このロジックモデルを軸に活動を展開している。ロジックモデルの3つの柱の一つは、行政・関係者・地域社会に働きかけ、「社会が困っている若者を認識すること」を促進する活動である。2022年度、若者のリアルな思いやニーズを社会へ届けることを目的に「私たちの声を届けよう！プロジェクト」を実施した。

このプロジェクトには企画段階から、横浜市社会福祉協議会地域活動部市民活動支援課の職員の方にご協力をいただいた。若者支援に意欲のある、横浜市内の企業経営者の方をご紹介いただいたり、ワークショップには、職員の方自身も地域社会のメンバーの一人としてご参加いただいたりもした。

また、ワークショップのファシリテーターは、サポステ職員ではない方のほうが、利用者が率直に意見を挙げやすいのではと考え、横浜市内で若者の居場所を長く運営しているNPO法人の職員1人にご協力いただいた。このようにサポステに限らず、地域の支援者や企業の方々に積極的に関わってもらうことにより、若者、企業、支援者も皆が地域社会の一員であり、対等に意見を交わし合い、より良い社会を作っていこうという気運が醸成されることを期待して企画を練った。

よこはま若者サポートステーションのロジックモデル

スーパーゴール 「共に生きる可能性を探り、多様な生き方を認め合う社会」を目指す。



注1 継続的な社会参加(就労、障害福祉サービス、精神科ケアへの通所、専門機関の利用、ボランティア、職業訓練、通学)の開始数 注2 就労プログラム実施後、利用者を採用した企業数/採用された人数

(1) プロジェクトの具体的な内容・方法

対象：よこはま若者サポートステーションを利用中の方

実施日：2022年8月～9月

方法：①アンケート、②利用者座談会、③利用者&企業ワークショップ、の3つの形態でプロジェクトを構成した。社会に対して思いや意見を伝えたい人が誰でも参加しやすい形態として匿名のアンケートを実施し、実際に顔を合わせてのディスカッションの場を2回設定した。利用者だけの座談会で思いの共有などを行い、次の利用者&企業ワークショップでは、企業の方々がそのメンバーに加わり、希望や要望、これからの社会について話し合う場を設けた。

①アンケート

下記の質問項目でアンケートを実施した。こちらの想定にとらわれずに自由な発想で答えてもらいたいとの意図で、年代のみ必須選択とし、それ以外はすべて自由記述式とした。回答方法は紙への記入またはWEB入力の2種類を用意した。約1か月間の回収期間内で107枚の回答が集まった。

<質問項目>

1. 年代
2. サポステを利用し始めたきっかけはどんなことですか。
3. サポステに来る前、どんなことに悩んでいましたか。
4. 今、あなたが自分の将来のことで感じている希望や不安はどんなことですか。
5. 4で答えたことについて、「もっとこんなサポートがあったらいいのに」と思うことがあれば教えてください。
6. 社会に対して「もっとこうなってほしい」とあなたが思っていることがあれば教えてください。

<年代別回答結果>

回答数は107件（紙面：47件、WEB：60件）であった。年代は、10代：3件（3%）、20代：49件（46%）、30代：45件（42%）、40代：10件（9%）と20-30代の回答が9割を占めた。

年代	回答枚数	割合
10代	3	3%
20代	49	46%
30代	45	42%
40代	10	9%
合計	107	

②利用者座談会

2022年9月6日、9日の2日程で、よこはまサポステにて利用者座談会を実施した。各日ともに時間枠は14時～16時（2時間）で実施し、施設内で配架したチラシを見て参加を希望した、延べ17人の若者が参加した。ワークショップでは、先に実施したアンケートで挙がった意見を集約した資料を用い、それを受けての感想、またこの機会に伝えたい個々人の考えや思いを共有する場とした。両日ともに最初は緊張感もあったが、アンケート結果の感想などを話し合ううちに徐々に雰囲気はほぐれ、個々人のエピソードも交えて、日頃感じていることやサポステについて思うことなどを話し合った。

③利用者&企業ワークショップ

2022年9月20日12時～14時（2時間）で、利用者座談会に参加した若者16人と横浜市内の企業経営者2人、横浜市社会福祉協議会の職員2人が加わり、総勢20人でディスカッションを行う場を設けた。今回のワークショップでは、こんな社会になってほしい、こんな仕組みがあったらよいなどの思いや意見について、参加者全員が立場によらず、対等に率直な意見を出し合う場となった。参加者の感想として「時間がもっと欲しかった」「次回を楽しみにしています」との声が挙がるほどの盛り上がりを見せた。



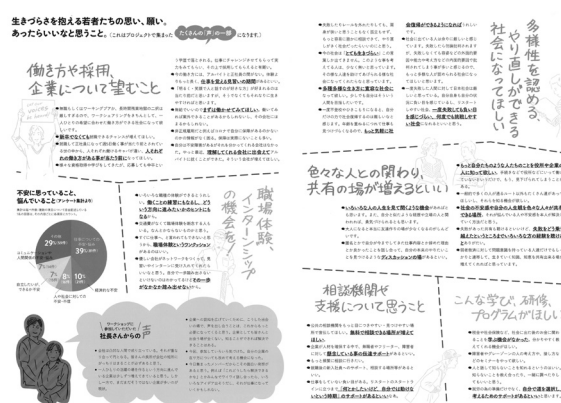
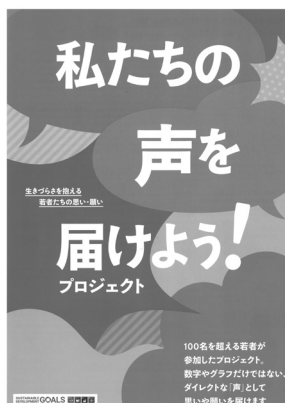
（2）プロジェクトの成果

内容を公開する前提でのアンケートや企業経営者、地域社会の人を織り交ぜてのワークショップという点で、サポステ利用者にとってハードルが高く感じるのではないかと危惧を抱いていたが、アンケート回収数107件、ワークショップでは参加者17人に加え、キャンセル待ちが出るほどの申込数があり、結果として延べ140人が参加するプロジェクトとなった。また、終了後に若者から「こういう機会をもっと増やしてほしい」「色々な人の思いや考えを知ることができて良かった」という感想が多く挙がり、若者自身も声を上げる機会を欲していることが分かった。若者にとって、本プロジェクトに参加すること自体が、様々な人との思いや考えの共有を通して勇気づけられたり、新たな気づきを得たりする非常に有益な体験にもなっていたと考えられる。

本プロジェクトの実施報告として、リーフレットとWEBページを作成し、関係機関への広報を行った。リーフレットは横浜市社会福祉協議会が行う寄付を活用した支援事業（ヨコ寄付）より費用負担をいただいた。今回、本誌でこのプロジェクトを知った方にもリーフレットやWEBページで是非彼らの声を読んでいただきたく、以下にURLを記載する。

私たちの声を届けよう！プロジェクト

<https://www.youthport.jp/voices/>



(3) 今後の取り組み

今後も「私たちの声」を社会に届け、具体的な動きに反映させていきたい。まずはよこはまサポステにて今回の声をもとにした新しいプログラムを2023年度から実施できるよう準備を進めている。

また、本プロジェクトのアンケートとワークショップで挙げた声を、研究知見として社会に伝える活動も行う。具体的には、東京大学大学院教育学研究科博士課程に在籍する職員（津田容子）が、今回のデータを分析し、2023年9月開催予定の日本心理臨床学会の大会にてポスター発表を行い、その後に論文投稿も予定している。生の声としての実施報告とその声の支援への反映、また研究知見としての発表と、今回集まった多数の声は引き続き様々な形で社会へと発信していく。

【文責：熊部良子】

2. 令和4年度「横浜市就職氷河期世代相談サポート付集中プログラム事業」事業報告

1. 事業概要

《日程》

本事業は、令和4年度に3期実施した。各期日程を表1に示す。

表1：プログラム日程一覧

期	日程（全24回/3か月間）	職場体験（全24回のうち5回）
I	2022年7月14日（火）～9月29日（木）	8/31～9/26
II	2022年10月4日（火）～12月22日（木）	11/24～12/8
III	2023年1月10日（火）～3月30日（木）	3/1～3/20

※講座は基本水曜日、木曜日の11:00～12:30。講座後の1時間は「放課後」として教室での滞在可。参加者同士の交流に活用。

※講座前／後に個別面談を実施。

《会場》

ビジョンセンター横浜（〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸2-5-15 プレミア横浜西口ビル3F、4F）306号室他
および 各職場体験先事業所（表2参照）

表2：職場体験先事業所一覧

企業名 / 業種	体験内容	実施期
G 株式会社 / 建築業	倉庫作業（部材の整理、棚卸、清掃等）	I、III
K 協会 / 福祉事業	事務（データ入力、資料整理、電話取次等）	I、II、III
S 株式会社 / 商社	事務（総務、貿易）	I、II、III
L/ 就労移行支援事業所	訓練プログラムの体験	I、II、III
S 協議会 / 福祉事業	事務（資料整理、備品管理等）	II
N 社会福祉法人 / 介護施設	介護補助	II、III

《講座の内容》

■概要：目的の異なる3ステップを設定し、ステップ毎に振り返りを行い進路を選択

◆ステップⅠ：心理的に安心・安全な居場所の構築

無業者支援専門の担当面談者との信頼関係構築。会話や通所に慣れ、居場所・仲間作りを促進。

◆ステップⅡ：自己理解・社会理解

社会スキル・職業スキルの基本の習得を通じ、自分の課題と強みを把握する。社会資源や企業の担当者といった様々な方と交流し、社会参加のイメージを広げる。

第3章 2022年度の取り組み

◆ステップⅢ：社会参加の試行

ステップⅡでの自己理解、社会理解を踏まえ、体験先を選択する。実際の職場を体験し、自分の力の発見や再確認、課題への対処法を見出す機会とする。

各講座の詳細を表3に示す。

表3：各講座の詳細

ステップ	回	講座	内容とねらい
Ⅰ	1	3か月をデザインするワーク・個別面談	参加者、担当者の安心できる関係性を築く、今後の見通しをつける。
	2	PC 講座 Word	仕事で用いる Word スキルの確認。
	3	ストレッチ体操	リラックスと交流。
	4	PC 講座 Excel	仕事で用いる Excel スキルの確認。
	5	自己表現ワークショップ	五感を用いたコミュニケーション。
	6	テーマトーク	テーマのある会話を通して相互理解。
Ⅱ	7	オンラインツール講座	Zoom 他テレビ会議システムの活用を実習で学ぶ。プログラム終了後の交流手段としての活用も。
	8	ソーシャルスキルズトレーニング（SST）①	職場の会話（ミスの謝罪）を想定した練習。
	9	ソーシャルスキルズトレーニング（SST）②	職場の会話（分からないことを質問する）を想定した練習。
	10	履歴書作成講座（パソコンによる作成）	履歴書の基本の確認、および作成。
	11	自己理解ワーク	前半を振り返り、職場体験に備える、他メンバーからのコメントをもらう。
	12	企業や社会資源の説明会	5社より業界および企業説明を受ける。様々な仕事や社会資源を知る機会となる。この中より体験先を選択。
	13		
	14		
	15		
	16	実習説明会	目標設定およびグループワークで不安やその対処法の共有。
Ⅲ	17	各体験先で実習	各自が選んだ実習先で5日間（1期は3日間×2社）の体験。 毎日日誌を記入。 受け入れ先担当者より、フィードバックを受ける。
	18		
	19		
	20		
	21		
	22	個人ワーク・面談	終了後の進路を具体的に検討。
	23	面接対策講座	面接の実習。
	24	振り返り・今後に向けて	3か月を振り返り、自信を高める。

※期により、講座回の入替えあり。人付き合いのコツとしてアサーション講座を実施。

《個別面談》

- ・面談者は担当制とし、面談毎に面談記録を作成。面談記録の例を図1に示す。
- ・基本面談回数は3か月間で6回（各ステップ2回）とし、それ以外にも適宜求めに応じて実施した。
- ・面談は、講座の前あるいは後に1回25分で設定。
- ・面談では、予め面談担当者が記入しておいた「参加状況」と「スタッフ振り返り」（図1を参照）を元に、参加者と振り返りを行う。頻回に振り返りの機会を持つことで、参加者の不安や要望を聞き取り、プログラム参加意欲の向上を図った。

振り返りシート 実施：2022年 月 日 参加者番号： 記入者：			
参加状況			
回	日付	出席	様子
6	1/28	出席	テーマトーク：自己紹介聞いたこと、肩こりがひどくなって年がな。以前の介護の仕事、若い人がいない、60くらいの人、自分と合う人がなくて孤立してしまったり、すごく悩んだ。感情面の方の適応や仕事など貴重な話を聞いて勉強になった。（参加者）
7	2/2	出席	オンラインツール講座：ツールの使い方に戸惑ったようでしたが、ご自身でスタッフや他の方に声掛けされ、次第に楽しく活用されていました。（参加者）
8	2/4	出席	SST①：ロールプレイは前半でトップリーダー、生徒は全員に手を挙げていました。次に講師のあったポイントをしっかり押さえて、基本に沿った話を聞いていただきました。振り返りを受けた後「教えていただいたことがとてもありました」と丁寧に伝え、お話をさせていただいたところも礼儀正しく感謝的でした。（スタッフ）
スタッフ振り返り			
項目	様子	スタッフコメント	
遅刻・欠席連絡	B +	・オンラインツールの回にて質問されていたようすが、前回の面談を意識して質問にチャレンジされたのでしようか？挨拶も意識して取り組まれているように感じます。	
身だしなみ	A +	（ご本人より）	
ルールの理解	A +	・サバステのテーマトークはZoomだったのでタイムラグがあり、話すテンポが難しかった。今回は対面だったので話しやすかった。特にOさんの話は感動した。（引きこもり経験のお話）	
健康管理	A +	・オンラインツールについて、勇気を出して隣の人に質問した。（中村より）初めて使うものは戸惑いやすいのかも。慣れればOK。	
感情コントロール	A +	・SSTについて、「前にも怒られたし、今回も怒られるのでは…」という、CBTでやった過度な一般化みたいなのはネガティブな考えが出てくる。SSTのような練習は今後やりたい。	
挨拶	B +	・挨拶や協調性（参加者と話す）はまだもう少し。	
会話・言葉遣い	B +		
報告・連絡・相談	A +		
協調性	B +		
準備と片付け	B +		
参加者振り返り			
達成したこと		感想・気づき	
・SSTでロールプレイをやり切れた ・（オンラインツールの回で）自分から声をかけて質問できた。			
苦手だったこと		次までに意識したいこと	

図1：面談記録の例

2. 実施結果

本事業全体の参加者数は29人であった。表4に各期の参加者内訳を示す。

表4：参加者内訳

性別内訳		年代内訳		
男性	女性	30代後半	40代前半	40代後半
14	15	8	16	5

※Ⅱ期の参加申込者1人が参加手続き完了後に就職が決まったため参加辞退となった。

出席状況について、全期を通じての出席率は76.4%であった。

《進路決定状況》

令和5年3月31日時点での進路決定状況は、正規雇用1件、進路決定者数15件（正規雇用およびその他進路決定を含む）となった。これ以外の変化として、医療受診が5件あった。

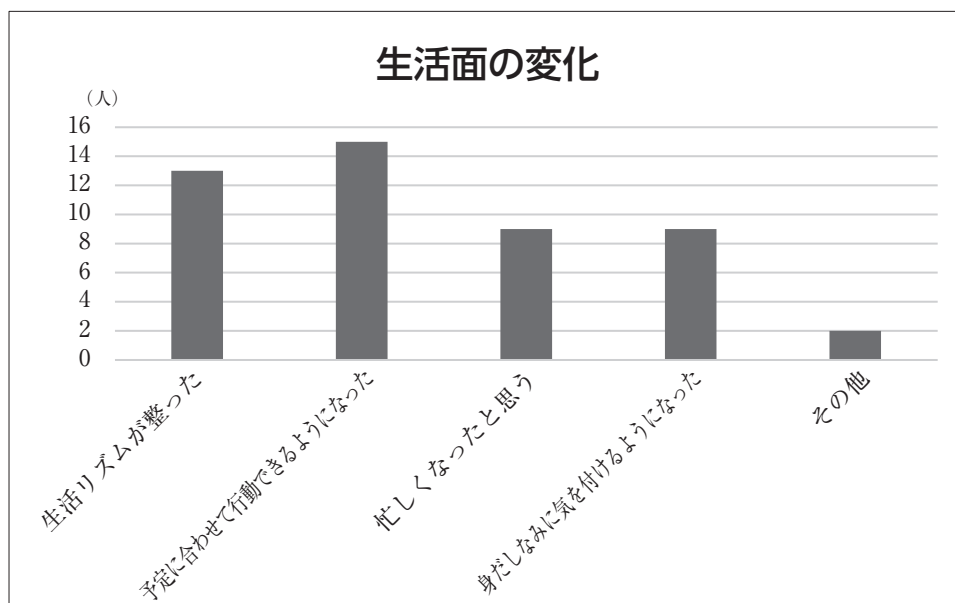
進路決定種別		件数	内容
正規雇用		1	
正規雇用以外の 進路決定	就労	7	アルバイトおよび契約社員
	その他 (通所、他機関利用開始)	7	就労移行支援事業所、自立訓練事業所への通所、 横浜市氷河期世代支援窓口、シニアジョブスタイル等

《アンケート結果》

各期終了時にアンケートを実施した。総合的な満足度に関する質問（下記のアンケート質問番号5）では、回答者全員が満足（満足および非常に満足）と回答した。

アンケート結果詳細を以下に示す（全回答者数19人）。

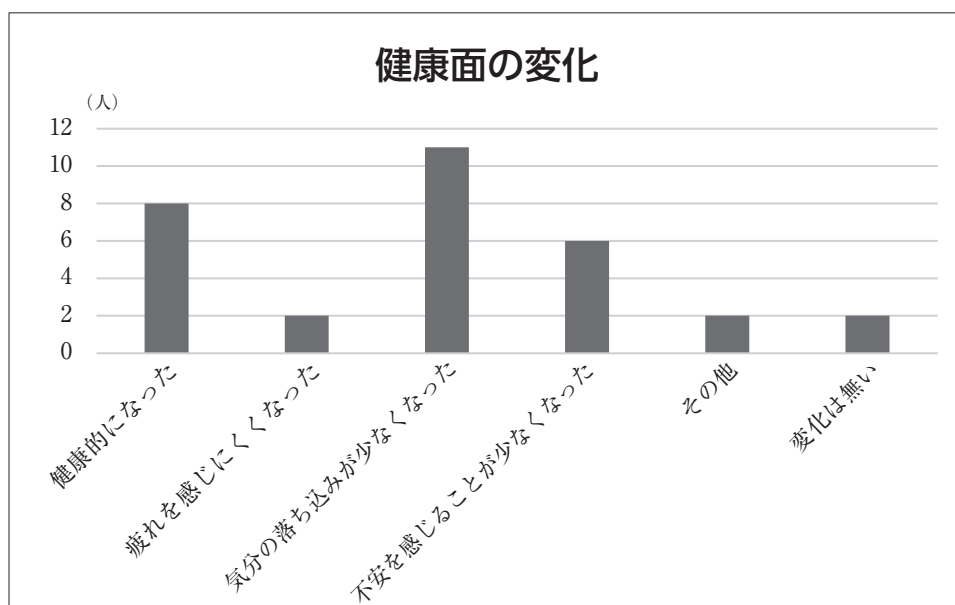
1 生活面：この講座参加前と参加後に感じた変化についてお答えください（該当するものに✓）



（自由記述欄記入内容抜粋）

- ・家を出て自分の用事をする事に後ろめたさが減った。
- ・自分のための時間を持つことができたし、これからも少しずつでも自分ときちんと向き合う時間を作ろうと思えるようになったから。
- ・自分の生活にハリが出ました。時間の使い方、ペース配分を考える基準にできたと思います。

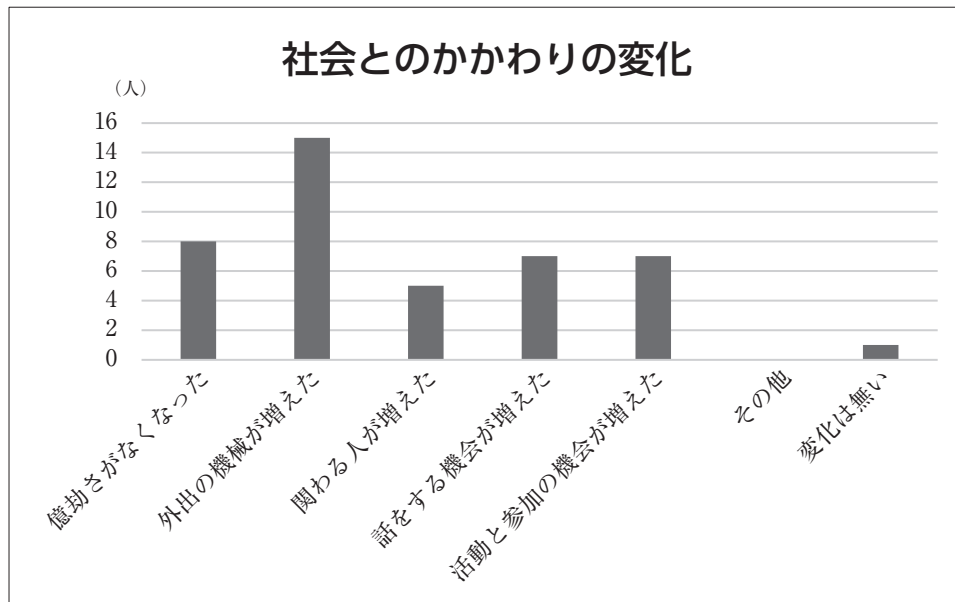
2 健康面：この講座参加前と参加後に感じた変化についてお答えください（該当するものに✓）



(自由記述欄記入内容抜粋)

- ・外に出て動くことが増えたため少し疲れることが多くなったが、良い疲れだと思う。
- ・人を信じて相談することで（個人面談等の活用で）自分の考えに納得いくことにつながった。この方向へスタッフが導いてくださった。
- ・考え方が前向きになってきた。不安に思うことも頑張ってみよう、まずはやってみようと思えるようになった。

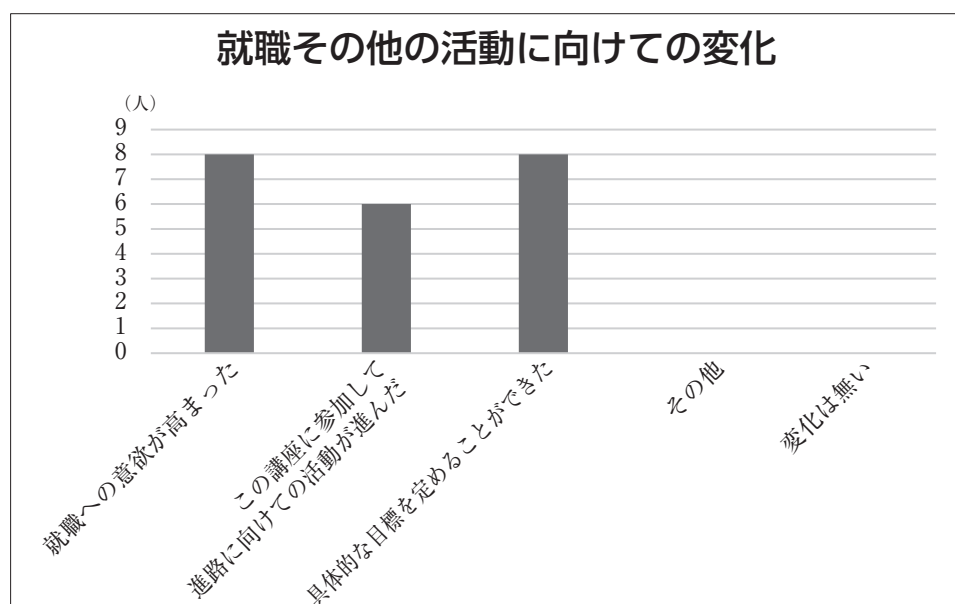
3 社会とのかかわり：この講座参加前と参加後に感じた変化についてお答えください（該当するものに✓）



(自由記述欄記入内容抜粋)

- ・自分から外に出ることも増えてきた。活動があれば自分で選んで参加しようとするが増えた。
- ・決めたことをきちんと進めることができる自信がもてた。
- ・仕事を始める上での今の障壁や、プライベートな悩みについても相談できる場所がつけられ、話ができ、感謝しています。

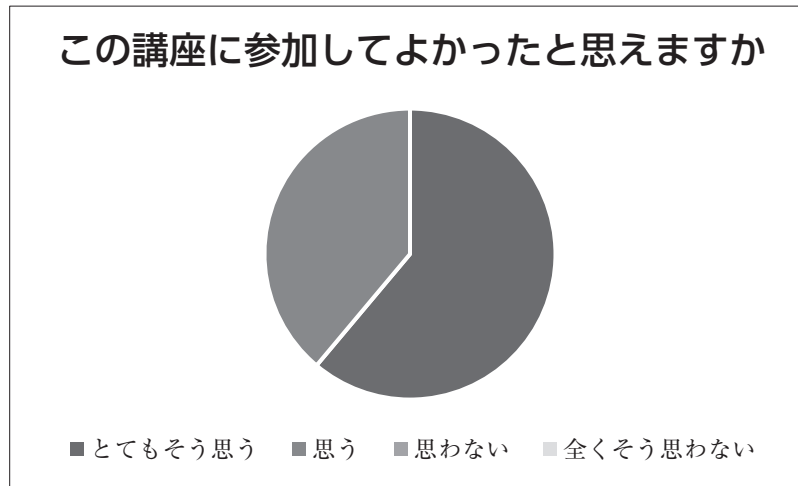
4 就職その他の活動に向けて：この講座参加前と参加後に感じた変化についてお答えください（該当するものに✓）



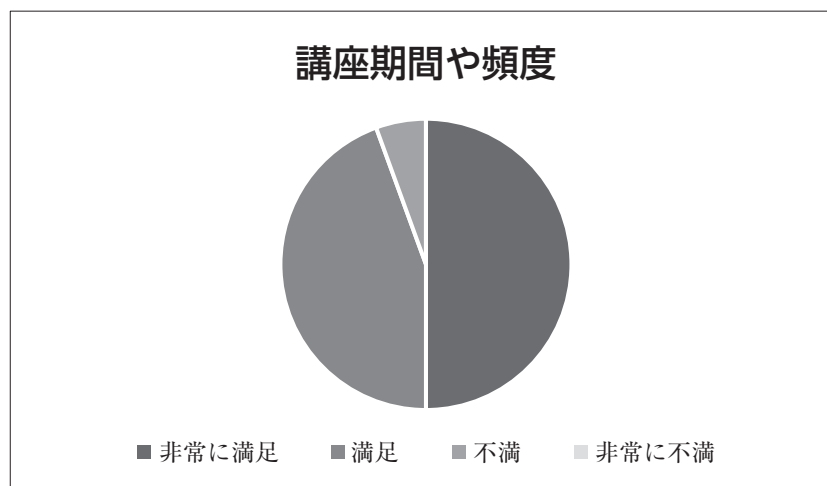
(自由記述欄記入内容抜粋)

- ・就職に向けての気持ちが出来上がりつつあり、自分の中でスタートラインに立つことができた。
- ・皆さん、前向きに取り組んでらっしゃるので、自分も早く進めていかなきゃと前向きな意味で刺激になりました。
- ・漠然とした方向性しか考えていなかったなので、具体的な目標を定めることができて良かった。

5 この講座に参加してよかったと思えますか



6 講座期間や頻度



(その理由抜粋)

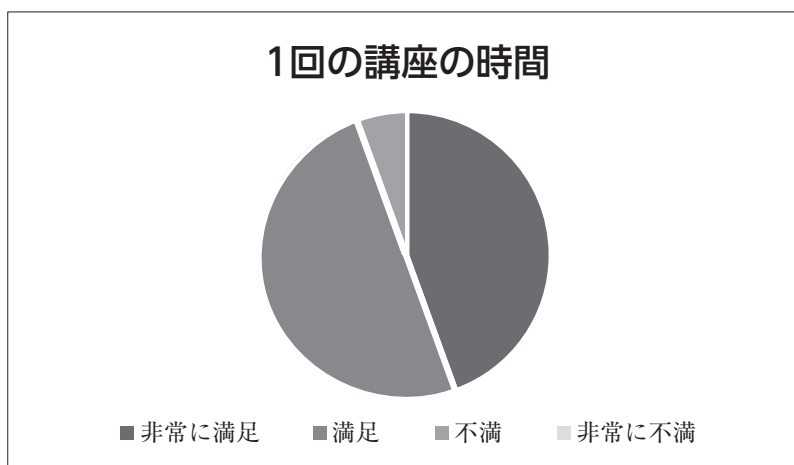
満足の理由

- ・期間も日程も自分に無理なく参加できたため。
- ・自分のための外出に不安があったので少しずつ慣れることができた。

不満の理由

- ・もう少し週ごとの回数を多くして、その分期間を短くしてくれた方がいい。

7 1回の講座の時間



(その理由抜粋)

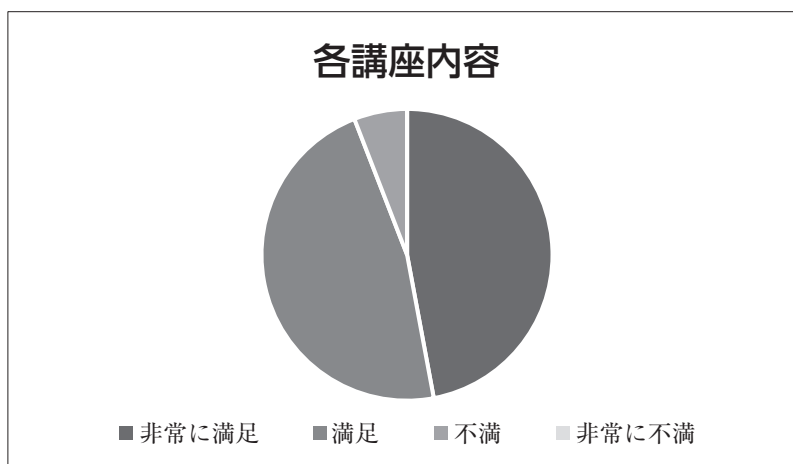
満足の理由

- ・集中が続くちょうどよい時間だと思います。
- ・あまり長いと集中力が無くなってしまいうし、体力的に負担になるため。

不満の理由

- ・短いと思うこともあったから。

8 各講座内容



(その理由抜粋)

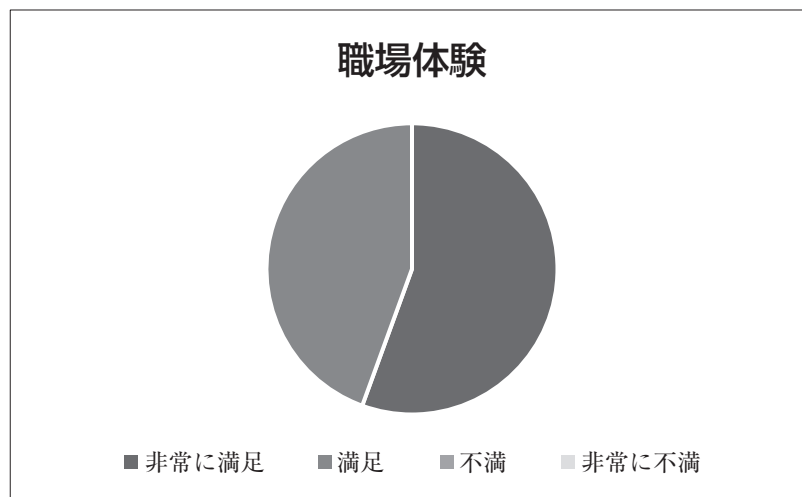
満足の理由

- ・各講座が目的、目標があり、そこに向かうことで達成感があることで続けて参加できた。
- ・職場体験やいろいろなロープレが貴重な体験になったから。

不満の理由

- ・老人ホームのプログラムのような年齢にそぐわないプログラムは辛かったです。

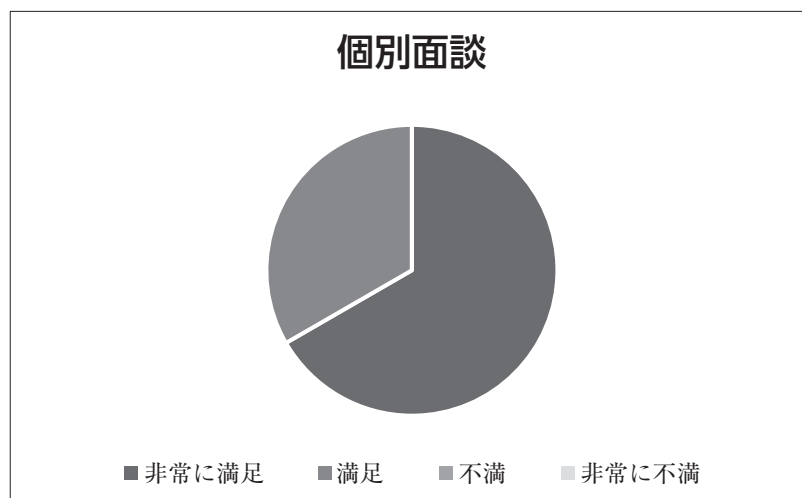
9 職場体験



(その理由抜粋)

- ・とても勉強になったし、楽しいと感ずることができたから。
- ・今までとは全く違う職種を体験できて良かったです。
- ・職場の環境や仕事内容を良く知ることができました。
- ・実社会の前体験ができた。

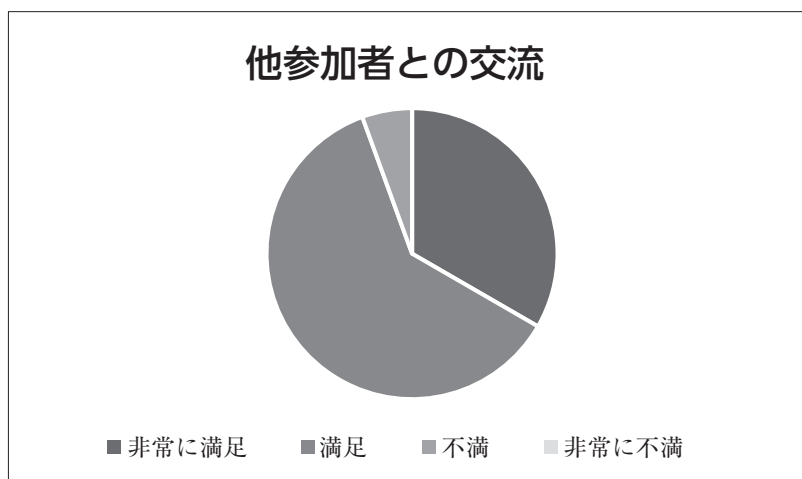
10 個別面談



(その理由抜粋)

- ・いつも相談する際話しやすい言葉かけをしていただいたことで、不安や嫌だなと思ったことでも落ち着いて伝えることができた。
- ・自分の行動や迷いを気づけてもらえてわかりやすくおしえてもらえてありがとうございます。
- ・今までになかった視点のアドバイスをいただきました。
- ・こちらの意見を尊重してくれるのが良かった。

11 他参加者との交流



(その理由抜粋)

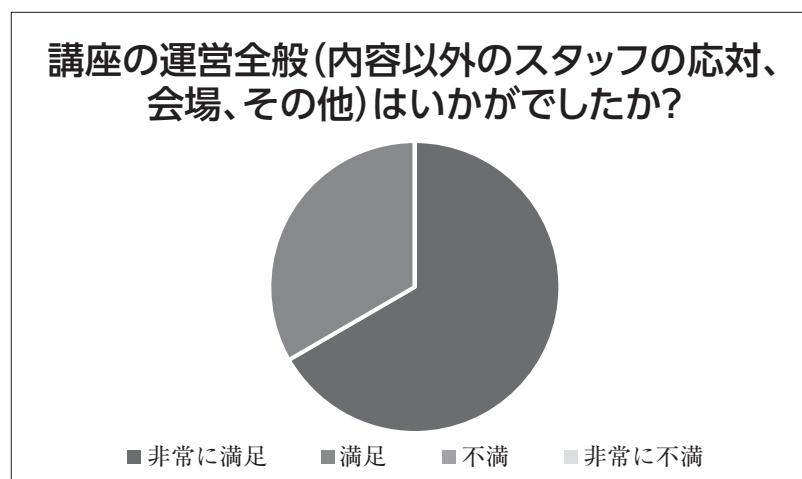
満足の理由

- ・話しやすい方話しづらい方などいろいろな人々との交流をしたことでコミュニケーションを自分から積極的に行うことができた。
- ・もう少し仲良くなりたい、話したいと思える方ができたから。
- ・同じ境遇と同世代の方で皆さん良い方でしたので、話し易かったです。
- ・いろんな方がいる話し方も考え方もたくさんあり、それなのに皆さんやさしくて本当によかった。

不満の理由

- ・もう少しフリートークの時間があってもいいかも。

12 講座の運営全般（内容以外のスタッフの対応、会場、その他）はいかがでしたか？



(その理由抜粋)

- ・皆さんいつも優しい対応できちんと話をきいてくださってありがたかったです。
- ・お金を払っていないのが申し訳ないくらい満足のいく対応でした。ありがとうございました。
- ・人に会うのを避けていた時期から参加しましたが、優しく接して頂き気持ちが和らぎました。スタッフの皆さん素晴らしい人達でした。本当にありがとうございます。

13 今後就職氷河期世代向けの支援でどのようなメニューがあればいいと思いますか（回答抜粋）

- ・社会に参加する機会や職場の体験等、ワークステップでしか得られないことが他の場所でもあったらありがたいなと思いました。
- ・氷河期世代特有の話題を話す機会があればと思います。
- ・ファッションのアドバイス講座とかプログラムみたいなものがあつたらよいなと思いました。
- ・今回のように、氷河期世代に対する理解のある企業様との橋渡しをしていただけると良い。

14 本講座への感想、ご意見、ご要望、お気づきの点などがございましたら自由にお書き下さい（回答抜粋）

- ・3か月間でしたが参加したことで自分の中で何をすればいいのかわからなかったことが少しずつ形作られていて、いることに気が付き、働くことに対してのスタートラインにやっと立てたような気がしています。この3か月の体験をやりきったことを自分の力にしていきたいと思います。
- ・最初は不安や緊張などネガティブな感情の方が強かったけど、いろいろな体験を通じて少しずつ楽しかったり、もっとやってみようとか前向きな気持ちを久しぶりに感じる事ができました。本当にお世話になりました。ありがとうございました。
- ・いろいろな場面で自分が苦手としている要素、不安点について客観的に判断、コメントくださいました。何度も励まされ、貴重な経験でした。ありがとうございます。

■今後ワークステップの参加を迷っている方にお勧めのメッセージがあればお書きください（回答抜粋）

- ・他者とのコミュニケーションに対して、苦手な気持ちもあると思いますが、ここの場だけでも人に声をかけることに慣れたり楽しむことで、体験の際にも自分から声をかけるための勇気を得られるかもしれません。緊張しているのは皆様同じです。今の自分より一歩だけでも進めるために自分の無理のない形でコミュニケーションをとれたらいいなと思います。
- ・より他者との交流、理解が深まる。
- ・何でも最初は怖かったり、不安だったりすると思いますが、少しだけ一歩進んで飛び込むことも大切だし、やってみて良かったと思えることもあります。やらなくて後悔するよりも、まずはとにかく何でもやってみること。そして自分のペースも楽しみながらでもいいのでゆっくり前に進むことの大切さをワークステップを通して体験してもらえたらいいなと思います。どんな結果でも自分が良かったと思えればきっと前に進む一歩を踏み出したといえると思います。辛かったりすることがあっても良かったと思える日が必ず来ると信じて頑張ってみてほしいです。
- ・参加すると必ず人間関係が生まれて、影響を受けたり与えたりすることを避けることができないので、必ず何らかの刺激を受けることができると思います。
- ・周囲との関りに不安を感じていたのが、このプログラムに参加し少しずつ自信が芽生え、自分らしく過ごしていると気づくことが多くなりました。プログラム内でいろいろな素晴らしい機会、ご縁に恵まれ、自分の予想をはるかに上回る結果（求人に関心で応募する勇気がつき、内定したこと）が出せたことは心から嬉しく、感動しています。今後もここでの経験を糧にやっていこう！と思えるような充実した3か月を過ごせると思います。
- ・同じ世代の人と交流しながら、働くことへのステップになれる講座だと思います。
- ・最初はワークステップへの参加を迷いましたが、皆さんが優しい方だったので毎回楽しく通うことができました。自分に自信が持てた事が良かったです。ワークステップに参加して本当に良かったです。
- ・何かきっかけを掴むにはもってこいのプログラムだと思います。
- ・就職活動に向けて不安などあっても担当制の面談があるので心配事が減り、就職への意欲が高まりました。
- ・自分がどんな状況で緊張したり、焦ってしまったりするのかなど知ることができたのと、自分がどんな性格だったのか、何が得意だったか思い出したり気付いたりします。私は自身の発言や行動、何もかもに自信を失って

いたので1つ1つためして少しずつこれはできた、私は大丈夫と自信をとりもどすことができました。

- ・毎週決まった曜日の決まった時間に出かける習慣ができたことが良かったです。講座の内容も様々で有意義な時間でした。
- ・1人で就職活動を進めていましたが、ワークステップに参加し、スタッフとの面談を受けている際に、1人では就活の際に気づけなかったことなどを気づくことができました。1人で就活をするよりかは、スタッフと一緒に相談しながら行った方がより良い結果になると思います。
- ・就業経験のない人には、はじめの一步としてすごくいいと思います。
- ・まず、社会に出ることに苦手意識がある層にとっては、良い予行演習になります。定期的な外出機会があるだけでも違うと思います。
- ・職場体験させていただけるというのは貴重な体験だと思います。自分はあまり、人と仲良くなるのは得意ではないのですが、自由に話せるワークなどもあるので、参加者の中で気の合う人と仲良くなる機会は十分にあると思います。

3. 総括と今後の課題

《総括》

今年度の事業では、KPIとされている正規雇用就職者数(1人/目標1人)、進路決定者数は(15件/目標12件)は達成、講座受講者数(29人/目標30人)は96%の達成(受講開始直後に就労決定による辞退があったため、1人が不参加)で終了した。以下、中断者の分析と参加者の特徴、居場所機能へのニーズ、就労につながった要因の3点より総括を行う。

中断者の分析と参加者の特徴

今年度全体の出席率は76.4%であり、昨年度より低下した。これは主に中断者の影響である。開始後の中断者は6人生じ、その内訳として①就職が決まったため卒業した方が2人、②体調不良で外出が難しくなった方が2人、③プログラム内容が合わなかった方が1人、④状況が変わり就職活動自体を中断した方が1人である。

①の2人はプログラムの目的を達成しているため課題とは捉えず、残り4人の中断状況について検討する。②の2人はその後通院と並行してサポステの相談を継続しており、社会的孤立状態には陥っていない。体調が改善すれば速やかに社会参加に向けて活動できる状態であるといえる。③の1人もサポステ相談は継続中で、今後について検討している。④の1人に関しては、本人の通院状況や家族の介護が影響したようである。

中断者を除いた、最後まで通い切った参加者の出席率は88.6%であった。欠席の理由としては一時的な体調不良(コロナウィルス、風邪等)、同居家族への対応(両親、祖父母の通院介助等)が見られた。

このことから、前年度と同様に参加者の無業の背景には、本人の健康問題と家族内での介護の必要性の問題があると考えられる。中断・欠席に際して、無断ではなく必ず本人より欠席理由の連絡があったのも前年度に等しく、就労意欲の低さや怠惰が長期無業の原因でないことが推察される。引き続き無業の背景要因を含めて対応していくこと、たとえ中断となっても相談先を確保することの重要性が確認できた。

居場所機能へのニーズ

今年度の実施においては、前年度の本プログラムが氷河期世代の心理的な居場所としての機能を果たしていたことを踏まえ、プログラム内での相互交流の機会を強化した。アンケートにおける他参加者との交流に対する満足度は、94%が満足(満足および非常に満足)であった。コメントやアンケート自由記述欄に「同じ境遇と同世代の方で皆さん良い方でしたので、話し易かったです」「同じような世代、状況の人が実際にいるんだ、と気づけただけでも収穫でした」とあるように、同じ立場の仲間と交流による安心感は大きい。

反面、「もっと話を自分からしても良かったのかなとも思う」「本音で人と話せない、人との距離感にコンプレッ

クスを感じていた」「満足だが、どうしても壁はあった」といったコメントから、交流したい気持ちがありながらも行動に移すことが難しい状況も読み取れた。

参加者同士の交流機会確保は継続しつつ、コミュニケーションの苦手さに配慮した企画やサポートが必要であろう。

就労につながった要因

今年度はプログラムを経て就労を開始した方が8人（正規就労1人、非正規就労7人）であった。また非正規就労のうち3人は、職場体験先で採用になったケースである（3月31日時点の暫定結果。3期10人はプログラム終了が3月30日であったため、今後就労決定数が増えることが見込まれる）。前年度より就労決定数は微増した。

就労につながった要因として、①精神的健康状態の向上、②自己理解の促進、③仕事に向けた具体的な道筋の3つが考えられる。

①精神的健康状態の向上については、任意回答を依頼したWHO-5精神的健康状態が参加前/参加後比較で87%の回答者の得点が上昇変化している。またアンケート結果（2健康面の変化）より「考え方が前向きになってきた。不安に思うことも頑張ってみよう、まずはやってみようと思えるようになった」「1人でずっと考えて悪い方向へ進んでしまうことがへったので気持ちが楽になった」「（健康面が改善してよかったと思う理由として）ずっと1人でいるとどんどん落ち込みはまってしまう為」「考えても仕方がないようなことを考えて不安になることが少なくなったように思います」といったコメントからもその変化が見て取れた。本プログラムに3か月間/週2回定期的に外出し人と交流すること自体が、参加者の身体的、精神的な健康状態を改善するのに役立ち、結果として前向きに就職活動に臨むことができるようになったと考えられる。

②自己理解の促進については、アンケート回答より該当する記述を抜粋する。「1つずつコミュニケーションや体験を試してどう感じたか考える機会になった」「自分のweakポイントを改めて知りました」「自分がどんな状況で緊張したり、焦ってしまったりするのかなど知ることができたのと、自分がどんな性格だったのか、何が得意だったか思い出したり気付いたりします」「自分の良さがまったく思いつけなかったもので、こういう人間なのだとアピールするポイントがみえてきた事で無理につくろわなくても動けそう」といったコメントがあった。講座内容は、パソコンスキル、履歴書作成や面接練習といった就活スキル、職場コミュニケーション、フリートーク、身体表現を取り入れたもの、さらに職場体験と多岐にわたっている。これにより、多角的に自身の能力や適性を確認する機会となり、参加者自身が強みと課題の気付きに至ることができたと考えられる。

③仕事に向けた具体的な道筋については、任意で回答を依頼した日本版リカバリー尺度24項目版の「目標・成功志向・希望」、および職業キャリアレディネス尺度の「計画」の向上から示されるように、プログラム参加を経て未来を具体的に描けるようになった結果、進路選択に至ったと推測される。また職場体験がそのままアルバイトに直結したケースはその最たるものであろう。仕事に向けたステップを具体化することが非常に重要といえる。

《今後の課題》

以上の総括を踏まえ、今後の氷河期世代向けプログラムに関する課題と提言を3点述べる。

1点目として、本プログラムの対象者の無業の理由は意欲以外の課題（健康問題および家族対応）の影響があるため、そちらへの対応なしにプログラムの中断を減らすことは難しい。しかし3か月というプログラムの期間中に背景課題まで含めて対応するのは現実的ではない。そのため中断を完全になくすのではなく、中断が生じてもその後の支援が途切れることのないような対策が必要である。具体的には、支援機関自体への信頼感を醸成し気軽に利用を再開しやすい素地を作ること、同時に、プログラム早期より相談機関の利用を始めておくことが重要となるだろう。参加者のうち、これまで相談機関を利用していない人も複数いた。そのような人にとってプログラム開始と相談機関利用開始が重なるのは、一時的には負担となり得るが、再度の社会的孤立を防ぐために必要な取り組みといえよう。

2点目に、今年度も引き続き居場所効果は確認できたものの、相互交流への不安や苦手もあることが推察された。今後のプログラムでは、相互交流を行う基盤となるコミュニケーションスキルを日常的に練習するような場も必要で

あると考える。その基盤を身に付けて初めて、同じ立場の仲間と交流を開始し、安心感を得ることができるだろう。

3点目は、就労につながった3つの要因のうち、③仕事に向けた具体的な道筋について改良の余地があるとする。今回この点が上昇したことは確認できたものの、どの内容が直接影響しているのかについては解釈ができなかった。ゆえに、今後は自己理解と道筋の具体化を連動させ、より強化する内容が望まれる。

【文責：駒形直子】

ここにいるその人を大切にする

ユースポート横濱

特定非営利活動法人ユースポート横濱 法人概要

■沿革

2006 年 9 月	法人設立
2006 年 12 月	よこはま若者サポートステーション事業受託・開所
2013 年 4 月	泉区における就労困難な若者の社会参加促進事業 受託
2014 年 4 月	生活困窮状態の若者に対する相談支援事業（よこはま若者サポートステーション 拡充事業）受託
2014 年 8 月	横浜市就労訓練事業支援センター運営事業 受託
2015 年 6 月	特定相談支援事業所ユースポート 開設
2021 年 5 月	横浜市就職氷河期世代相談サポート付集中プログラム事業 受託
2023 年 4 月	藤沢市若者サポート事業・若年者就労支援事業 受託

■法人使命

孤立状態にあることで困難を抱えている人に対して、その人がありたい姿に近づけるよう就労や生活に関する支援をし、支援を通じて発見した課題に取り組むことによって社会に貢献すること

Empowerment 第 16 号 (よこはま若者サポートステーション 2022 年度報告書)

2023 年 5 月 24 日発行

発行 元 特定非営利活動法人ユースポート横濱

発行／編集責任者 理事 津田 容子

連絡 先 〒 220-0004

横浜市西区北幸 1-11-15 横浜 ST ビル 3 階

TEL 045-290-7234

FAX 045-290-7235

本文の無断転用・転載を禁じます。

©YouthPort Yokohama 2023

よこはま若者サポートステーション

2022 年度報告書 Empowerment Vol.16

